

千葉教育

蓮

令和6年度
No.686

千葉の子どもたちの未来のために

特集

教職の魅力

○シリーズ 現代の教育事情

学校法人千葉敬愛学園敬愛大学経済学部教授

中村 敏行

元明海大学副学長・外国語学部長・教職課程センター長

高野 敬三

県教育庁教育振興部教職員課

○教育長あいさつ

千葉県教育委員会教育長

富塚 昌子

○提言

ソニーグループ株式会社元代表執行役副会長

石塚 茂樹



千葉県総合教育センター

学校自慢

創立150周年をこえ、 新たな歴史と伝統を築く

鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校校長 いいづか ひろふみ
飯塚 博文



1 伝統と歴史の礎に支えられ

本校は、明治7年1月に鎌ケ谷村に最初に開校した小学校である。それから長い年月にわたり令和5年度で創立150周年を迎えた。明治、大正、昭和、平成そして令和の各時代を歩み、多くの卒業生を輩出してきた。様々な分野で活躍する、鎌ケ谷市が誇る人材を創りだし、大いに貢献してきた。将来の変化を予測することが困難な時代ともいわれる今日であっても、本校の伝統は多くの人の中に燦然と息づいている。

2 記念式典

令和5年12月9日（土）、体育館にて記念式典を行った。鎌ケ谷市長、市議会議員、教育長をはじめ、



衆議院議員、参議院議員、県議会議員、市議会議員、歴代校長、市内小中学校長、自治会関係、民生委員など、多くの方々のご臨席を賜り、伝統ある学校として盛大に祝っていただいた。本校音楽部、鎌ケ谷中学校吹奏楽部、鎌ケ谷市吹奏楽団による演奏が式典に色を添えた。まさに地域に支えられ、育まれている学校である。

3 合唱フェスティバル

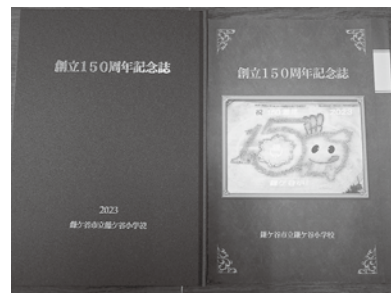
令和6年1月には、全校児童による「鎌ケ谷小学校のお誕生会」として150周年記念合唱フェスティバルを開催した。全校児童が体育館に一堂に会するのは3年ぶりである。各学年、趣向



を凝らした内容で盛り上がった。中でも900人を超える全校児童で3年ぶりに歌った校歌は体育館中に響き渡るだけでなく、聴く者に大きな感動を与えた。鎌ケ谷小学校の昔から未来へと繋がる素敵なひとときとなった。

4 記念誌創刊

子供たちに楽しんでもらえる記念誌ができあがった。自分たちの通う学校が、どのようにしてできてきたのか。150年のバトンを繋いでいく一員として興味を持ってもらえるような内容を目指した。今は難しくても、大きくなって読み返した時に、鎌ケ谷小学校をより知ってもらえるように、学校の歴史を中心にま



とめた。もちろん、子供だけでなく、保護者、地域の方々、卒業生、教職員が手にしても、楽しみながらも読み応えのある1冊となった。

- ◆学校自慢 創立150周年をこえ、新たな歴史と伝統を築く 鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校校長 飯塚 博文
 ◆教育長あいさつ 一人一人の個性と可能性を伸ばす教育をめざして～子供たちと先生の笑顔のために～
 千葉県教育委員会教育長 富塚 昌子…2
 ◆提言 好奇心を持つこと ソニーグループ株式会社元代表執行役副会長 石塚 茂樹…4

シリーズ 現代の教育事情 教職の魅力

- 教職の魅力とは～現場教職員の生の声を集めて～ 学校法人千葉敬愛学園敬愛大学経済学部教授 中村 敏行…6
 ■教職の魅力 元明海大学副学長 外国語学部長 教職課程センター長 高野 敬三…8
 ■千の葉の先生になる 県教育庁教育振興部教職員課…10

チーム学校の仲間たち 教職の魅力・学校職員の魅力

- 「笑顔」の力 県立千葉南高等学校校長 和田 潤子…12
 ■働きがいのある職場環境づくりへの挑戦 銚子市立飯沼小学校教頭 平野 誠一…13
 ■教務主任の役割と未来への取組～働き方改革とデジタル化の推進～ 大多喜町立大多喜小学校教諭 和山 孝行…14
 ■教職のやりがい～主幹教諭として～ 柏市立柏第五小学校主幹教諭 鈴木 亮一…15
 ■子供たちの「できた喜び」、「成長」、「笑顔」のために 酒々井町立酒々井小学校教諭 茅野 英行…16
 ■共感と共考 県立千葉特別支援学校教諭 園原 太郎…17
 ■子供の「やりたい!」「やってみたい!」を目指して 香取市立山田小学校教諭 森 達也…18
 ■AIにはできないであろう職業、教員 市原市立姉崎東中学校教諭 竹下 沙耶…19
 ■楽しく前向きに取り組める授業を目指して 鴨川市立天津小湊小学校教諭 石井 佑佳…20
 ■幼児とともにつくる保育 浦安市立舞浜認定こども園教諭 片山 遥…21
 ■「給食があるから学校生活が楽しい」を目指して 習志野市立大久保東小学校栄養教諭 植田 敦子…22
 ■養護教諭の魅力 長生村立八積小学校養護教諭 前橋 沙耶…23
 ■チーム学校の一員として～学校事務職員の魅力～ 長柄町立長柄小学校主事 秋葉 七海…24
 ■子供たちの教育に携わる魅力について 健康福祉部児童家庭課・兼教育庁児童生徒安全課副主査 君塚 恵美…25

長期研修生報告

- 令和5年度長期研修生 研究主題一覧 県総合教育センター研修企画部…26
 ■令和5年度長期研修生の研究の紹介 令和5年度長期研修生…28

情報アラカルト

- 「カリキュラムサポート室」の御案内～先生方の力量を高めるための支援事業～ 県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発班…29
 ■「授業づくり・学級づくりガイドブック」の御案内 県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発班…30
 ■「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」について 県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発班…31
 ■千葉県児童生徒・教職員科学作品展から全国展へ 県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育班…32
 ■教育相談事業の紹介 県総合教育センター特別支援教育部…33
 ■開館50周年記念 特別展「PROJECT UMINOUE『五十嵐靖晃 海風』」 県立美術館…34
 ■特別展「万祝大博覧会ー海をまとうー」 県立中央博物館…35

学校 NOW!

- 高校NOW! 【連載・県立高校の今】令和6年度 第1回
 木更津東高校（「魅力ある県立学校づくり大賞」最優秀賞）
 理数科設置校、松戸向陽高校、佐倉東高校（「学校提案型魅力発信事業」実施校）
 県教育庁企画管理部教育政策課高校改革推進室…36
 ◆発信! 特別支援教育 障害のある子供の支援をする教職員の方へ～特別支援教育基礎コンテンツの御紹介～
 「自閉症」「発達障害」コンテンツの掲載追加について 県総合教育センター特別支援教育部…38
 ◆千葉歴史の散歩道 石器から分かる「石の採れない土地」千葉県の持つ魅力
 県教育庁教育振興部文化財課発掘調査班文化財主事 荒木 昂大

道 標

読者の皆さんは教職の魅力をもどのように捉えているだろうか。また、学校（園）で働くやりがいをどう感じているだろうか。

「教師の仕事の価値・やりがいに関する情報」という文部科学省のWebページがある。そこには、「教師は学校教育の要であり、子供たちに寄り添いながらその成長を実感することのできる、他では得がたい経験のできる魅力的な職業です。」とある。

昨今、学校がブラック企業のように言われている

が、教職に魅力と生きがい、やりがいを感じている教師は、たくさんいるのではないだろうか。

本号では「教職の魅力」について、学校で働く全ての方々を対象とし、通常の紙面の割り振りを変更して、教職の魅力ややりがいを語っていただいた。

本号をお読みいただき、改めて教職の魅力について再確認し、今後の教育活動を進めていく活力としていただければ幸いである。



一人一人の個性と可能性を伸ばす教育をめざして ～子供たちと先生の笑顔のために～

千葉県教育委員会教育長 とみづか 富塚 まさこ 昌子



1 はじめに

令和6年度がスタートしました。この3年間に、学校訪問や各校長会の役員の先生方及びPTAの皆様との懇談、若手や中堅の先生方との意見交換等を通して、学校現場の声を直接聞くよう努めてきました。

また、多くの先生方の御協力を賜り、各種実態調査等を実施し、学校の課題を客観的にとらえ、可視化することも試みました。

それらを踏まえ、今年度は、教員志願者確保や業務負担軽減のための新規事業に取り組むとともに、不登校児童生徒の教育機会の確保や系統的なキャリア教育の推進に係る事業の充実等を図ることとしました。

その結果、県の一般会計当初予算全体に対する教育費の割合は18%と、分野別では最も高くなりました。また、教育費のうち人件費以外の、いわゆる事業費の額は昨年度の約1.4倍、令和4年度と比べると約1.6倍になっています。

知事や県議会の御理解を得て確保した予算を有効に活用し、教職員が「働きがい」と「働きやすさ」を感じることでできる環境整備を進め、子供たちが安心して学び、将来に向けて可能性を広げていけるよう、精一杯努めてまいります。

2 令和6年度の主な取組

今年度の取組の一部を紹介いたします。

○第4期千葉県教育振興基本計画の策定

現行の第3期計画が今年度で計画期間満了となることから、次期計画の策定に向けて、教育界、産業界、保護者の代表等による有識者会議を立ち上げ、本県教育をめぐる現状や課題を整理した上で、目指すべき方向性等について、それぞれの専門の立場から意見を伺っています。

今後は、教育現場の先生方や教員を目指す学生などからも意見を伺い、来年3月を目途に新たな計画の策定を進めてまいります。

○優れた教員の確保と業務の負担軽減

令和6年度も募集定員以上の新規採用者を確保し、さらに全国初の取組として、本県の小・中・特別支援学校の教員として採用された方のうち、要件を満たす方全員の日本学生支援機構第一種奨学金返還を支援します。また、県内全ての小・中学校にスクール・サポート・スタッフを配置できるよう予算を確保したほか、新たに副校長・教頭の業務を支援する人材を配置します。あわせて、学校事務職員の負担軽減に向けて各種事務手続きのシステム化にも着手し、人材の確保と負担軽減に一層取り組んでまいります。

○児童生徒の支援体制の強化

昨年度実施した不登校児童生徒と保護者を対象とする実態調査の中で、学校に行きづらい要因の1つとして、学習の遅れや不安があることが明らかになりました。そこで、不登



校等の中学生を対象に、5教科の授業配信を6月より開始しました。また、フリースクールと学校等との協力体制の構築に向けたモデル事業を実施します。

さらに、不登校に限らず、子供や家庭を取り巻く様々な問題解決に向けた支援を行うスクールソーシャルワーカーを10名増員するとともに、プッシュ型で支援を行う実証事業を県内5つの中学校区で実施するなど、児童生徒への支援体制の強化に取り組んでまいります。

○特別支援教育の充実

特別支援学校の過密解消に向けて、第3次県立特別支援学校整備計画に基づき、地元市等との連携のもとで、千葉市・浦安市・君津市において3校の整備を進めます。加えて、県立松戸及び印旛特別支援学校において校舎の増築等に着手します。

また、医療的ケア児の通学支援事業をモデル的に実施するほか、県立高校での通級による指導のニーズに応えるため、新たに2校で巡回による指導を開始し、あわせて専門知識を持つ民間事業者との連携により個々の障害特性に応じた支援や指導の充実を図ります。

○学力向上への取組・系統的なキャリア教育の推進

令和4年度から千葉県独自の取組として、専門的な教科指導の充実や質の高い授業づくりを行うため、小学校に算数・理科・体育・図画工作の専科非常勤講師等を配置しています。配置校からは好評を得ており、本年度も配置を拡充しました。

また、キャリア教育については、昨年度実施した中高生や大学生等のキャリア意識調査の結果も踏まえて、高校生を対象に実施して

いたキャリアデザインの考え方などを学ぶモデル事業を新たに中学校でも実施するなど、中学・高校の段階から、社会で働くことや様々な職業への関心を高め、将来への目標を持って広い視野で進路を選択できるよう取り組んでまいります。

○魅力ある県立高校づくり

令和4年10月に策定した「県立高校改革推進プラン・第1次実施プログラム」で示した県立高校16校での新コースの設置等の取組が、4月からスタートしています。

具体的には、千葉商業高校の起業家育成に関するコースや袖ヶ浦高校の先進ITコース等の新たな価値を生み出す人材育成に向けたコースの新設、成東高校や鎌ヶ谷西高校等への教員基礎コースや保育基礎コースの設置、福祉教育コンソーシアムの大学や企業等との連携組織の充実等があります。

また、今年度も、県立高校が地域の複数の高校や企業・地元地域と連携・協働して学校の魅力を発信する「学校提案型魅力発信事業」を実施するほか、「専門学科を体験しよう事業」を拡充します。この取組では、専門学科や特色あるコースを設置する県立高校の教員や生徒が、近隣の小・中学校で、専門学科等の学習を体験する授業等を実施することにより、専門学科の学びの魅力を伝え、児童生徒の関心を高めます。

県立高校と地元自治体や地域の小・中学校との連携により、高校と地域の双方の魅力向上が図れるよう、引き続き御協力をお願いいたします。

好奇心を持つこと

ソニーグループ株式会社 元 代表執行役副会長 いしづか しげき 石塚 茂樹



ソニー（現ソニーグループ）は1946年に創立されました。祖業のエレクトロニクス製品に始まり、半導体や音楽、映画、ゲーム、保険などの事業を加え今年で78周年を迎えます。ソニー製品と言えば、年配の方はトリニトンカラーテレビやウォークマンを思いだし、子育てや運動会ではハンディカムが活躍したかもしれません。私はビデオデッキやビデオカメラの開発技術者としてスタートし、デジタルカメラの商品設計、事業の立ち上げを行い、さらに生産、販売・マーケティングにも関わりながら、最終的にはエレクトロニクス製品すべての事業責任者を務め昨年退任しました。

商品の開発から製造、販売まで

一般の消費者が購入し日常的に使用している電気製品はどのように作られているか？

1つの製品を作るためには、恐らく皆さんの想像以上に多くの人が携わっています。例えば、デジタルカメラやスマートフォンを例にとると、1台の製品は数千点の部品で構成されています。レンズ、イメージセンサーなど各種の半導体、電気回路部品（基板、抵抗、コンデンサ、コイルなど）、液晶ディスプレイ、バッテリー、外装や機構部品などです。それぞれの部品や全体構成を開発・設計するエンジニアだけで数百～千人、そしてその部品を組み立てる製造工場で働く沢山の人たち、さらに広告宣伝や電器店・カメラ店を通じて世界中の消費者に製品を届ける販売部門の社員など…とても多くの人たちが1つの目的のために一緒に働いています。

ヒット商品開発への挑戦

電気製品に限らず、どんな分野の製品でも、メーカーは世に出した製品が沢山売れることを期待して企画開発しますが、成功の確率は決して高くはありません。野球に例えると、大谷翔平選手でもホームラン打率は1割未満、そしてその数倍の三振を喫しています。我々のヒット商品と失敗作の関係に似ています。販売する前は当然売れてほしいと期待するわけですが、結果は芳しくないケースのほうが多く、時には製品の品質があまり良くない場合にお客様からクレームを受けることもあります。そうした失敗や様々な経験を積むことで、メーカーの技術力やユーザー訴求ポイントの目利き力が向上し、マーケティングや販売方法が洗練されることで成功の確率が高まり、さらに競合会社との競争を通じて鍛えられていきます。企業経営はチームで戦う競技スポーツの監督と似ているかもしれません。

デジタルカメラの歴史と事業変革

いわゆるデジタルカメラは1995年に最初の製品が発売されて以来、市場は毎年倍増する急成長を遂げ、私が担当するソニーのカメラ事業もその波に乗って数々のヒット商品を産み出していました。ところが2008年にiPhoneが発売され各社からのスマートフォンが世界中に普及し始めるとデジタルカメラ市場は急激に縮小します。同時にスマートフォンの影響は小型音楽プレーヤー、カーナビなど多くの電気製品に広がります。この時期はリーマンショックや自然災害（東日本大震災、タイ



の洪水)もありソニー全体でも非常に厳しく苦しい時期でした。会社や事業の存続をかけていわゆる構造改革を断行する一方で、将来の夢やビジョンを語るのが経営トップの仕事です。そして会社や社員が一丸となって、そのビジョンの実現に向けて努力しなければなりません。

当時私が責任者だった事業部門では、それまで中心だったビデオカメラやコンパクトカメラの開発戦線を思い切って縮小し、ミラーレス一眼カメラα(アルファ)と交換レンズの事業を徹底的に強化することを決め、そこにヒト・モノ・カネの経営資源を集中しました。そして当時業界で数%のシェアに過ぎなかった状態から「5年で1位になる」という大目標に向かって組織一丸となって取り組みました。幸いにも目標を達成することができ現在も好調を維持しています。

このプロジェクト成功の裏には、過去に挑戦したものの失敗を重ねた経験、そしていくつかのヒットモデルの成功体験、その両方が活きています。新製品の機能性能やデザインの魅力はもちろんですが、人のマネジメントやコミュニケーションが重要でした。例えば、

- ・目標達成に関わる数千人規模の社員をやる気にさせるために組織全体へ分かりやすいメッセージを発信し続けること
- ・現場(工場、販売店など)を訪問し、実情を確認しながら、メンバーを鼓舞すること
- ・新しいユーザー(プロカメラマンや専門店)の要望を絶えず聞き、製品の改良に盛り込む地道な努力を続けること

私自身も経営トップとして世界中を飛び回り、お客さまと直接会って対話することを実践してきました。さらに社員全員が、お客さまだけでなく株主や社会を含めたすべてのステークホルダーからの信頼感を高める努力がとても大切なことだと思います。

変化の激しい時代に求められること

近年の生成AIの急激な進化と今後の展開によってもたらされる社会の変化、また世界の地政学リスクや地球環境問題など将来予測が難しい時代になっています。未来を生きていく子供たちにはどのような能力を身に付けて欲しいのか、どのような体験をしておいて欲しいか考えてみました。

今や情報はインターネットで収集可能ですし、生成AIの進化によって知的労働の質や量も影響を受けていくことでしょう。私の経験談は、1990年後半から2020年までの過去の話なので未来には通用しない部分も多いかもしれませんが、時代が変わっても変わらないものや変えてはならないものはあるのだと思います。こういう時代だからこそ、まずは基本に立ち戻ることに即ち「読み書きそろばん」「人と話すこと、特に生身の人間同士が対話によってお互いを理解しようとする」とことが大切ではないでしょうか。

そして「好奇心を持つ」こと。私自身は学生時代に将来やりたい夢が明確にあったわけではありませんでした。しかし日々の仕事を地道に実行し、たとえつまらなそうな仕事でも好奇心を持ち、面白がって取り組むうちに、なぜか新しい発想が生まれ成果も出てくるので、次第に楽しくなってくるというのが実感です。また自分ひとりではなく仲間やチームでの共同作業では、課題や悩みはあるのですが、それらを乗り越えて大きな目標を達成できたときの喜びは格別です。教育の現場も同じではありませんか？

茂原市出身、長生高校理数科卒業
1981年ソニー(株)入社
エレクトロニクス製品の開発や事業経営に携わり
2023年に退任
現在は丸紅(株)、(株)LIXILの社外取締役、
日本バレーボール協会理事を務める
関連書籍:「ソニー デジカメ戦記」山中浩之著
(日経BP)

教職の魅力とは ～現場教職員の生の声を集めて～

学校法人千葉敬愛学園敬愛大学経済学部教授 なかむら としゆき 中村 敏行



1 はじめに

3年前に千葉県教育委員会を退職し、現在は敬愛大学で中・高社会科の教員養成に携わっている。以前から退職した後は、これまでの経験を生かして「人を育てる仕事」をしたいと考えていた。

今は、どうしても千葉県の教員になりたいという「意欲」と「やる気」に満ち溢れた学生たちと充実した日々を過ごしている。

ご承知のように、昨今、教員採用選考の志願倍率が大きく低下しており、多くの関係者が強い危機感を抱いている。志願者の確保は急務であり、そのためにも教員という職業の魅力をアピールしていくことは重要であると考えている。

今回は、「自己の経験」「現場教職員の生の声」「教職課程で学ぶ学生の視点」などから教員という仕事の魅力を紹介したい。

2 教員としての原点

今から40年ほど前になるが、初任教員として千葉県北西部にある市に赴任した。当時の記憶はかなり薄らいできたが、一つ鮮明に覚えていることがある。その市の教育長さんが朗読してくれた安積得也という詩人の「明日」という詩のことである

若い私にとって「教員の仕事とはこういうものだ。」と強く印象づけられた瞬間だった。

以来、漠然とではあるがクラスの子供たちのために全力で努力することこそが、目の前の子供たちの才能を開花させることにつながると考え無我夢中で頑張った。

教員人生は楽しいことや嬉しいことも数多くあったが、クラスの子供たちのことで苦悩することもしばしばだった。

そんな時、この詩が私の心の支えであり、教員という仕事の有り様の原点だった。

「明日」

はきだめに えんど豆咲き
泥池から 蓮の花が育つ
人皆に 美しき種子あり
明日（あす）何が咲くか

（『詩集 一人のために』より）

教室には、将来の日本を背負って立つリーダーもいれば、優秀な科学者もいる。そうした個々の子供たちが持っている素晴らしい才能を開花させることが、教員の仕事である。

子供たちに寄り添い才能を開花させるために努力し、そして自分自身も教員として、人間として成長していく。このような仕事は他にはなく、これこそが「教職の魅力」である。

3 現場教職員の生の声

県内のある職員団体の支部が行った「教職員のすてきな瞬間エピソード」というアンケート調査がある。現職の教職員が日常の仕事の中で、どんな時に教職に就いて良かったと感じているのか、生の声を集め、情報発信している。

私の研究室にも「ぜひ教員を目指す学生に紹介して欲しい。」ということで資料として提供されたものである。



資料を読んでもみると、「教職の魅力」が満載されている。紙面の都合上すべてを紹介できないのが残念であるが、3点に集約し、内容を紹介したい。

(1)子供たちの日々の成長が感じられる

- 何と言っても、子供たちの成長を目の前で見られること。逆上がりができた瞬間、問題が解けた瞬間の子供たちの笑顔は最高です。
- 「できなかったことができるようになる」無限の可能性を持った子供たち。そんな子供たちの成長を近くで見守ることができる。こんな素晴らしい職はありません。

子供たちは日々経験をとおして成長する。その手助けをしながら、子供たちの成長や頑張っている姿を間近で見ることができるのは、この仕事の大きな魅力である。

(2)人間形成や将来の生き方に深く関わることができる

- 不登校になっていた子供と話をたくさんし、一緒に悩み、励まし、ついに皆勤賞をもらえるまでに成長してくれた時、とてもやりがいを感じました。
- 以前担任した子供から「先生からもらった言葉のおかげで今も頑張れています。」との手紙が届き、教員は時がたっても誰かの支えになれる素敵な仕事だと感じました。
- 教え方、関わり方で子供たちから反応がストレートに返ってきます。こんなにおもしろく、刺激的な仕事は他にありません。

教職員の関わりは、子供たちの心の成長やその後の生き方にまで大きく影響を及ぼすこともある。

責任もあるが、やりがいも大きい。

(3)子供たちと一緒に自分も成長できる

- 子供たちの悩みに寄り添って日々を生活し、成長をそばで感じることができます。多くの体験から教員も人として成長することができます。
- 卒業時「先生があのかとき話を聞いてくれたから頑張れた。ありがとう。」と言われたときに、こんな私でも子供の役に立てたと思ひ涙がこぼれました。子供と一緒に成長できる教員という仕事は最高です。

教職は「人を相手にする仕事」である。

子供たちのトラブルや問題に向き合いながら、共に解決し、時に子供に学び、教員自身も人間的に成長していくことができる。

今回紹介した資料は、学生たちが「教職の魅力」を肌で感じられる大変貴重なものであり、今後、教員養成の場で活用していきたい。

4 まとめとして

現在、「教職概論」という科目を担当しているが、その第1回目の授業で、学生に「なぜ教員を目指すのか」という質問をしている。

学生の回答で多いのは「過去に素晴らしい先生との出会いがあった」「日々の成長や人間形成への援助・手助けをしたい」「教科の内容、楽しさを伝えたい」などである。

教員を志望する上で、子供たちへの援助や手助け、教科指導などに対する「使命感」や「意欲」も大切な要素である。

しかし、それらを後押しするのは、素晴らしい恩師との出会いである。

これからも教職員一人一人が教職に魅力を感じ、生き生きと仕事をしている姿を子供たちに示すことが教員志願者を増やすことにつながるのではないだろうか。

教職の魅力

元明海大学副学長 外国語学部長 教職課程センター長 たかの けいぞう 高野 敬三



1 なりたい職業に関するアンケート調査

いつの時代でも、子供にとって憧れの職業やなりたい職業のベスト10にランクインするのは教師である。手元にある(株)ベネッセコーポレーションが昨年11月に約1万8千人の小中学生に対して実施した「小中学生なりたい職業ランキング」によれば第5位に保育士・幼稚園の先生、第6位に学校の先生がランクインしている。ちなみに、第1位はユーチューバー（過去4年連続）であった。同じく同社が一昨年、中高生約1千7百人に対して実施した調査結果によれば、教師・教員・大学教授が第1位となっている。同種の調査は長年、様々な機関が実施しているが、あこがれの職業には教師がランクインしているのが見て取れる。教師という職業が「ブラック」だとして喧伝けんでんされたここ十年間くらいにおいても、このことに大きな変化はない。

2 学校における働き方改革の進行

平成25年に日本が初めて参加したTALIS（国際教員指導環境調査）の結果に端を発した、学校における働き方改革は着実に進行しているのか？そもそもTALISの結果はどんなものであったか？

日本の教員（中学校）の1週間当たりの勤務時間は参加OECD加盟34か国中最長（日本53.9時間、参加国平均38.3時間）であった。このうち、授業時間は参加国平均と同程度である一方、課外活動（スポーツ・文化活動）の指導時間が特に長い（日本7.7時間、参加国

平均2.1時間）ほか、事務業務（日本5.5時間、参加国平均2.9時間）、授業の計画・準備に使った時間（日本8.7時間、参加国平均7.1時間）等も長いという結果であった。この間、平成31年1月には、中教審がいわゆる「学校における働き方改革」の答申を出した。この答申を受けて、国は教員の勤務時間の上限を月45時間、年間360時間としたガイドライン（後に、指針に格上げ）を定めたり、1年単位の変形労働時間制（休日のまとめ取り）を採用できるようにしたりして勤務時間の管理を徹底するように通知した。また、「基本的には学校以外が担うべき業務」「学校の業務であるが必ずしも教師が担う必要のない業務」と「教師の業務だが負担軽減が可能な業務」との3つに分類して、学校及び教師が担う業務の明確化・適正化を図った。加えて、運動部活動や文化部活動の在り方に関する総合的なガイドラインを定め、学期中は週当たり2日以上（平日1日、土日1日以上）を設けることや、1日の活動時間は、長くとも平日は2時間程度、学校の休業日は3時間程度とするよう求めた。更には、小学校における35人学級の整備、小学校高学年における教科担任制の導入、教師以外の外部人材（スクール・サポートスタッフ、学習指導員等）の導入などを制度化するとともに学校のIT化を推進してきた。今年4月4日に公表された令和4年度教員勤務実態調査（確定値）によれば、平日1日当たりの学校での勤務時間の平均は、小学校で10時間45分、中学校で11時間1分と



前回調査からは30分ほど減少したものの、国が上限としている月45時間を超えるとみられる教師は中学校で77.1%、小学校で64.5%であった。業務別にみると、平日については、主に、「授業（主担当）」「朝の業務」「学習指導の時間」（小学校）が増加し、「学校行事」「成績処理」（小学校）「学校経営」（小学校）「学年・学級経営」（中学校）「生徒指導（集団）」（中学校）の時間が減少している。土日については、主に、「学校行事」「部活動・クラブ活動」（中学校）の時間が減少している。

遅々としてではあるが、学校における働き方改革は進行していると考ええる。

3 教員採用試験の倍率低下の実相

昨年度実施された令和6年度教員採用選考において、東京都教育委員会は、小学校の採用倍率（受験者数÷採用者数）が過去最低の1.1倍となったと発表した。全校種合わせた全体の採用倍率も1.6倍で、初めて2倍を切ったという。東京都を含め全都道府県等が実施した令和6年度教員採用選考に関する採用倍率については、現段階では文部科学省の正式発表は待たねばならない。

しかしながら、その前年度である令和5年度教員採用選考に関する文部科学省の実施状況調査によれば、全国の倍率は小学校が過去最低の2.3倍、中学校も過去最低とほぼ同水準の4.3倍となっている。文部科学省の調査によれば、小学校の採用倍率が過去最高の12.5倍となった平成12年度の受験者数は全国で4万6156人、採用者数は3683人であった。他方、令和6年度教員採用選考における受験者数は3万8952人、採用者数は1万7034人。採用者数が4倍以上に増加する一方で、受験者数の減少は約16%に留まっている。つまり、採用倍率の低下は、退職者数の増加や臨時的任用教

員、非常勤講師からの正規採用となる者の増加などを理由とした採用者数の増加が大きく影響していることが分かる。次に、受験者数の減少についてであるが、文部科学省の資料によると、大学等で教職課程を履修し教育職員免許状を取得した者の数は、平成25年度では約22万人に対して令和3年度では19万7千人となった。約1割の減少幅である。これは昨今の18歳人口の減少に伴う大学入学者の総数が減少していることが少なからず影響しているものと考えられる。

こうしたことから、近年の教員採用試験の倍率低下一つをもって、教職に関してマイナスイメージが定着して、子供たちや学生が教職を将来のなりたい職業の一つとして選択していないとは必ずしも言えないと考える。

折しも、国は教員の残業手当の「代替」とされている教職調整手当4%を10%以上に引き上げるという報道もあったが、このことが倍率低下を抑制する解決策となるか疑わしい。

4 教職の魅力再考

「あのとき、あの先生のおかげで、現在の自分がある。」「私の人生で、一番影響を受けたのは、小学校のときの担任の先生である。」などといった発言は、様々な分野で活躍している著名な方々から、よく聞かれる。

教職の魅力は、何ととっても、子供の人間形成に深くかかわることができる面白さである。子供の全人的な発達をサポートする職業に就き、教師も日々成長できることにある。子供の成長に尽くすことの喜びである。一人の教師が子供の成長に関わり、子供の喜怒哀楽を共有する喜びである。子供の幸せを自分の幸せと捉えるのである。給料等の多寡では語れない、こうした教職の魅力は、他の職業に見出すことは難しい。

せんは千の葉の先生になる

県教育庁教育振興部教職員課

【選ぶなら千葉県です！】

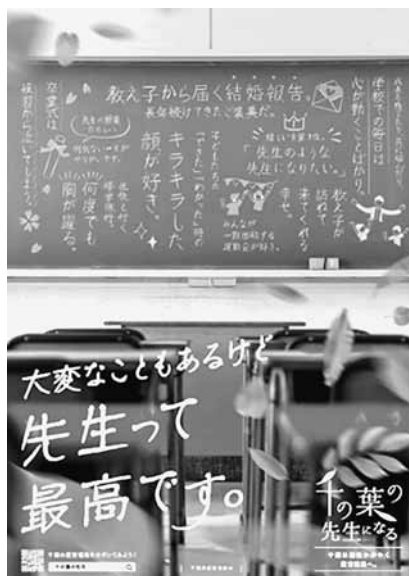
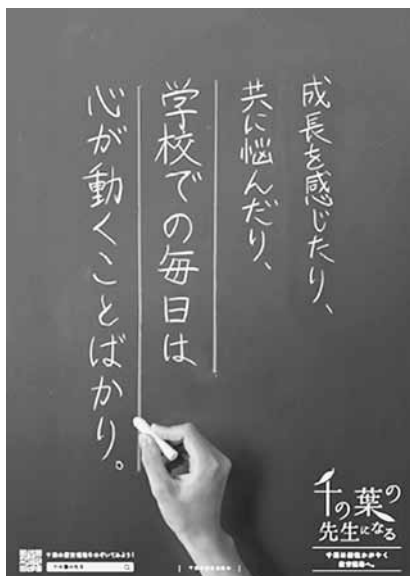
大学生向けの出前講座や、教員採用候補者選考の説明会では、開口一番、このように伝えている。まずはじめに、異動要件の良さが千葉県の魅力の一つである。千葉県は離島等の僻地要件がない。小中学校では、5つの教育事務所と千葉市が管轄していて、基本的には管轄内での異動となる。他の自治体では、管轄外への異動が必須のところもあるが、千葉県は管轄をまたいだ異動をしなければならないという要件はない。もちろん、管轄外への異動希望を出すこともできる。さらには、所持免許状により、異校種間交流ができる。教員になってからの選択肢が豊富である。他県出身者が多いのも特徴の一つである。他にも、妊娠に起因する疾病や精神疾病に関しては療養休暇180日が付与される。精神疾病について、90日を超えると分限処分として休職処分となる自治体が多いが、180日付与され

るのは、本県独自の特徴である。

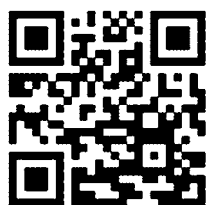
また、千葉県は工業・農業・水産業等、いずれの産業も国内上位である。空港やアクアライン等、交通機関も整っており、都市部へのアクセスが良い。スポーツやイベント施設やアミューズメント施設、大きなショッピングモールも充実している。山、田畑、海、河川、湖沼等は四季折々の表情が豊かで、多様な自然にも恵まれている。これだけ多くの側面をもっている千葉県は、働きやすく、住みやすい。そして、まさに、教材の宝庫なのである。

せんは千の葉の先生になる

令和5年度から、千葉県教育委員会では、新しく、公立学校教員採用特設サイト「千の葉の先生になる」を開設した。千葉県の子供たち、教員、学校、地域等、たくさんの輝く個性を、光をたくさん浴びてきらきらと輝く



「千の葉」に例えて表現した。特設サイトでは、現場で働く教員のインタビュー動画が見られる。特設サイト「千の葉の先生になる」で「ホームルーム」に登録すると、説明会や相談会等のイベント予約ができたり、公立学校教員採用候補者選考に関する情報を得たりすることができる。



←特設サイトはこちらから



令和6年度には、新しく2つの事業を立ち上げた。1つ目は、「教員不足解消に向けた奨学金返還緊急支援事業」。令和6年度から11年度までの間に本県の小・中・特別支援学校の教員として採用された者のうち、要件を満たす方全員の日本学生支援機構第一種奨学金返還を支援するというものである。今の高校生や大学生は、進路選択の際の参考にもしてほしい。2つ目は「千の葉の先生養成塾」。大学3年生等を対象として、教員養成講座を開講する。本講座の修了者には、令和8年度（7年度実施）の公立学校教員採用候補者選考における優遇措置を予定している。

【先生って最高です！】

学校では、色々な場面を想定して物事が進められている。授業準備段階では、「こんな問いかけをしたら、こんなふうに答えるだろう。」「こういう発言があったらこうしよう。」等、担当する子供たちの姿を想像しながら準備をする。学校行事、保護者面談、様々な場面においても同様である。それでも、教師が予想していなかったようなことが次々と起こるから、学校は面白い。日々、発見の連続である。例えば、用意していた手立てが予想外にうまくいかなかったときには、「ああ、なるほど！そういう反応もあるのか。だったらこれではどうかな。」と、アイデアを膨らませる過程が、わくわくして楽しい。「できた！」「わかった！」「先生、見て見て！」といった子供たちの表情や成長する姿を目の当たりにしたときの喜びと達成感は、何にもかえがたい、最高のご褒美である。

当課では、高校生向け、大学生向けに出前講座を行い、教職の魅力や仕事内容等を伝えている。出前講座に参加している学生に、教師という仕事に興味をもったきっかけについて聞くと、「恩師に憧れて、教師を目指すようになった。」と話すケースが非常に多い。「〇〇（教科）の先生の授業が面白かった。」「当時の担任がとても親身になって相談にのってくれた。」など、当時の具体的なエピソードも出てくる。教員という仕事は、年月が経っても鮮明に子供たちの記憶に残る仕事、進路選択に大きく影響を与える仕事でもある。

これから教師を目指すみなさんには、ぜひ千葉県で、きらきらとした毎日や心が動く毎日を実感しながら働いてほしい。「大切なのは、あなたらしさ。」千の葉の先生になって、あなたらしい葉をひらこう。

「笑顔」の力

県立千葉南高等学校校長 和田 潤子^{わだ じゅんこ}

教職に就いた頃には、管理職として学校経営について考えるなどということが、自分の人生に訪れるとは全く予想していなかった。

バブル期真っ只中に、某大手企業の内定を断って教員になるという私の判断に周囲は「本気か？」と呆れていた。男女雇用機会均等法が施行されたとはいえ、民間企業の空気はまだ違うことを感じる場面は多かった。私が教員という仕事を選んだのは、性別に関係なく、ずっと続けられる仕事がしたいと考えたことが大きい。自分の好きな国語と弓道に携わっていけるというのも、もちろんあった。ただ、崇高な使命感等とは程遠かったことをここに告白しておく。

仕事が始まると、日々の忙しさと理想も希望も吹っ飛んでしまう。うまくいかないことだらけだが、落ち込んでいる暇さえない。悔し涙もさんざん流したし、「もう、辞める！」と思ったことも一度や二度ではない。とにかく目の前の1日を乗り切ることに必死だった。こんな私が、教員としてここまで何とか仕事を続けてこられたのは、厳しく温かく指導してくださった先輩方、支えてくれた仲間、家族、そして何より生徒たちのおかげだ。様々な出会いに恵まれて現在がある。本当に感謝しかない。

そんな日々の中で感じていたのは、こちらが「教える」ことよりも生徒たちから「学ばせてもらう」ことのほうがはるかに多いということだ。自分は本当に何もわかっていないということをいつも思い知らされる。自分自身と向き合って努力を重ねていくしかない。苦しいし辛い。でも、学び続けることは喜び

でもある。謙虚さと向上心は常に持ち続けていたいと思っている。

教職の魅力は、何よりも生徒たちと過ごす時間の素晴らしさにある。一緒に笑って、一緒に泣いて、大変なことはたくさんあったはずなのに、覚えているのは楽しかったことばかりだ。生徒たちと共有した貴重な時間は決して色褪せることはない。

今日まで、高校教諭、生徒指導専任指導主事、中学校の管理職、高校の管理職…と様々な角度から教育現場を考える機会をいただいた。多くの貴重な体験の中で、改めて心から思ったのは、教員にとって一番のご褒美は生徒の「笑顔」だということだ。タイパもコスパも最悪かもしれないが、こんなに素晴らしい宝物を日々受け取ることが出来る職業なんて他にはない。その「笑顔」を守るために私たち教員は毎日必死で働いている。

学校が安心・安全な居場所であること。生徒も教員ものびのびと笑顔で過ごせる場所であること。その環境を整えることは、管理職の重要な役割だ。社会はめまぐるしく変化を続けている。ICT活用の推進、高校入試の改革、新教育課程を踏まえた大学入試への対応、生成AIの取扱い等、取り組むべき課題は山積している。現場は多忙を極める。その中で、周囲の声をしっかりと聴き、共に考えていくことの大切さを痛感する。自校の良さをさらに伸ばすために、方向性を示し、教員一人ひとりがより良い学校づくりについて考え、語り合い、行動していける職場を全職員とともに目指していきたいと考えている。もちろん、私も笑顔を忘れずに。

働きがいのある職場環境づくりへの挑戦

銚子市立飯沼小学校教頭 ひらの 平野 せいいち 誠一



教頭として銚子市立飯沼小学校へ赴任して2年目。教頭として何ができたか、全職員に聞いてみた。自分の取組と職員からの評価を教頭のやりがいとしてまとめた。

(○印は校長、●印は職員からの評価)

1 地域との連携

教頭として、保護者との絆を大切にし、地域人材の活用に力を入れてきた。

○フットワークが軽い。

- 毎朝、地域をまわりながら、ごみを拾い、児童や保護者、地域住民と交流している。
- 毎日休まず、朝一番に学校に来て、校内点検や通学路点検をしている。
- 校外学習や社会科見学等、外部との連絡や交渉を率先して行っている。

2 人材育成

若年層の授業参観や生徒指導上の助言は、気が付いたらすぐに行うようにした。

○授業の充実（自身はもちろん、先生方へ適切にアドバイスしている。）

- 将来を担う若い先生方へ、優しい言葉かけや適切な指導方法を提供している。
- 教科や学級経営の指導力、助言力がある。
- 学校全体、職員の立場をよく考え、適切にアドバイスしている。
- どんなに忙しい時も、いつもこちらの話にきちんと耳を傾けてくれる。

3 風通しのよい職場環境づくり

教頭から率先して挨拶し、気になったことは校長や職員にすぐに伝えるようにした。

○校長への報告・連絡・相談が適切である。

○職員の相談に迅速かつ丁寧に対応している。

- 職員が行きたいと思う職員室の雰囲気を作っている。

- コミュニケーションを大切にして、一人一人の職員のことを理解している。
- 職員の体調や学級の様子を気にかけている。
- 何気ない相談を聞いたり、すぐに対応してくれたりする。

4 働きがいのある職場へ

○的確な仕事の割り振りができる。

- 縁の下での力持ち。
- 学校教育目標を達成するために校長の右腕となり働いている。
- 校長が不在のときも、学校で問題が起きたら対応してくれる。
- 新任者がなじみやすい環境をつくっている。
- 私たちが見通しをもって取り組みやすいように、環境を整えてくれている。（毎月の予定やレポート等の課題の締め切り）

5 おわりに

教頭の職務として、校長のビジョンのもと、未来を見越して学校経営を支えていかなければならないが、目の前の職務に追われてしまっている。しかし、力を入れたことを職員が評価してくれる。これが教頭のやりがいとを感じる。課題として

○ベテラン層への対応（職務上の上司として）

○人事評価第一次評価者として（校内の見回りとともに授業や職員の様子を確認）

- もう少し細かい点を共有して欲しいと感じる時がある。
- 授業改善についてのアドバイスがもっとほしい。
- 時間外の勤務が多いので、もっと休んでほしい。

課題は山積みである。この課題を解決していくこともまた、教頭のやりがいである。

教務主任の役割と未来への取組 ～働き方改革とデジタル化の推進～

大多喜町立大多喜小学校教諭 和山 孝行



1 はじめに

近年、教育現場でも働き方改革や校務DX（デジタルトランスフォーメーション）が進み、その中で教務主任の役割がますます重要となっていると感じる。従来は紙でのやり取りが主流であったが、クラウドツールの利用が進み、場所や時間を問わずに業務ができる環境が整いつつある。教務主任は、柔軟な働き方の導入を提案し、教職員が最適な環境で働けるような仕組みを検討していかなくてはならないと考える。

2 教務主任としての取組

(1)タスク管理

Microsoft Planner（以下、Microsoft 省略）を活用することで、プロジェクトの各タスクを分類し、担当者を割り当てることができる。これにより、誰が何を担当しているのかを明確にし、学校全体でタスクを効率的に管理することができる。

また、提出物の締切りを割り当てて知らせることで、教職員は自分で締切りを設定する手間を省くことができる。これにより、教職員は時間を節約し、他の業務に集中することができるようになった（図1）。



図1 Teamsに追加した担当者別タスク管理画面

(2)予定の共有

これまでその日の予定を職員室のホワイトボードに手書きしていたが、職員室以外では確認ができないという不便さを感じていた。そこで、SharePointを活用し、インターネットに接続された任意の場所からアクセスすることができるようにした。そのため、教職員が教室や自宅など職員室以外の場所においても、共有された予定表をリアルタイムに確認することができるようになった（図2）。



図2 Teamsに追加したSharePointページ

(3)その他の取組

- ・遅刻、欠席連絡のデジタル化
- ・校務のペーパーレス化、クラウド化 など

※以下のURLや二次元コードから、導入方法や実践例をご覧ください。

https://note.com/takayuki_wayama



3 おわりに

未来の教育に備え、大きな変化に対応することで、教務主任の仕事がより意義深くなるのではないかと考える。柔軟性と新しい技術への適応力をもちながら、学校の発展に寄与することが教務主任の大きな役割であり、やりがいであると考えている。

教職のやりがい ～主幹教諭として～

柏市立柏第五小学校主幹教諭 すずき りょういち 鈴木 亮一



1 はじめに

私は昨年度より気持ちも新たに主幹教諭となり、4年生の担任を受け持つこととなった。教員生活も15年目を迎え、発展期から充実期の時期に来ている。そのような状況の中、主幹教諭として特に、若年層教員に向けて教職の魅力を伝えていきたいと考えている。

2 若年層教員の育成

昨年度も今年度も、初任の教員が自分の学年にいたため、学習指導や生徒指導面でのアドバイスはできるだけ具体的にすることで、伝わりやすいよう工夫した。教職1年目は、学習指導だけでなく、生徒指導や保護者対応などで多忙感を感じやすい。そこで、私自身が初任者だった時の気持ちを思い出しながらかつ接することで、より寄り添った指導ができると考えた。どのような不安があったか、どのように指導されたら理解ができ、モチベーションが上がったかを振り返りながら指導していくことは、私自身の資質向上にもつながったと考えている。

3 風通しの良い職場づくり

質の良い教育を行うためには、教職員同士のより良い人間関係が何より大切であると考えている。

教職現場では、年齢も経験年数も違う教職員が共に学校教育目標に向け、同じ方向を向いていかなければならない。そこで重要となることは、些細なことでも相談することができ、共に笑い合える関係である。そのような関係をつくる手助けをすることも主幹教諭と

しての使命である。

そこで、教職員の円滑なコミュニケーションを促進する目的として、「クレープ作り体験」を企画した。そこでは、ベテランや中堅、若年教員等が好きな具材を入れ、クレープを食べながら、笑顔でコミュニケーションを図る姿が見られた。このように楽しそうに交流を図る姿を見ることは、改めて嬉しいものだと感じた。

4 学校運営・校長・教頭の補佐

「主幹教諭は、校長及び教頭を助け、命を受けて校務の一部を整理し、並びに児童の教育をつかさどる。」と学校教育法にある。私自身、担任を受け持っているため、学校全体の教育課程を担当している教務主任と連携をしながら教育課程の編成を進めてきた。また、主幹教諭は管理職と教職員とのパイプ役でもある。教職員の現在の状況把握に努め、積極的に声をかけて相談に乗ったり、変化があれば管理職に伝えたりしながら、風通しの良い職場環境を目指してきた。

5 おわりに

主幹教諭としての職務を常に意識し、自覚しながら実践を進めてきた。振り返ると、自分の学級の児童だけしか考えていなかった教職1年目から、全教職員や全校児童、保護者や地域全体について考えるようになった。その中で、教職員が生き生きと働き、笑顔で学ぶ児童の姿がそこにある、そのことが、今の私にとっての何よりの教職のやりがいであると感じている。

子供たちの「できた喜び」、「成長」、「笑顔」のために

酒々井町立酒々井小学校教諭 かやの 茅野 ひでゆき 英行



1 はじめに

私は本校に赴任して3年目になる。教員経験は13年目を迎え、昨年度から自閉症・情緒障害特別支援学級の担任及び研究主任として職務にあたっている。本稿では、特別支援学級の担任としてのやりがいや研究主任としての取組について紹介する。

2 特別支援学級の担任を希望した理由

私は11年間、通常の学級の担任として子供たちの素直な心や優しさに触れながら学級経営に取り組んできた。しかし、新たに自分自身が成長していくために、今までの経験を生かして、以前から関心のあった少人数で様々な可能性を秘めている子供たちの指導に取り組んでみたいと強く感じ、現在、特別支援学級の担任をさせていただいている。

3 特別支援学級の担任としてのやりがい

担任としてのやりがいは、先生方と協力しながら子供たちの活動場面を多く取り入れた支援について検討を重ね、実践できた時である。そして、実践を通して、子供たちが「できた喜び」を実感し、「笑顔」になった表情を見ると、やりがいと同時に教員としての喜びを感じる。

4 特別支援学級の授業実践

授業の実践については、個別の指導計画を基に自立活動の項目を取り上げて、各教科の内容や活動と関連させながら進めている。また、得意なことを生かしながら苦手なことについて克服できるような学習の場を設定し、子供たちの明日の成長につながるよう努めている。加えて、交流学級担任と情報共有しながら子供たちの支援にあたっている。

5 研究主任としての取組

本校の研究教科は算数科である。研究主題は「自分の思いや考えを伝えることのできる児童の育成～算数科における基礎基本の定着と表現力の向上を目指して～」と設定している。これまでの授業で課題としてあげられることは、限られた子供の発言や活動が多く、全体で思考を深める展開までには至っていないことである。そこで問題解決のための見通しをもち、自力解決に取り組んだ後、少人数によるグループ活動（ICTの活用を含む）を展開して、すべての子供が自分の考えを発表したり、相手の考えを聞くようにしたりしている。この取組により、教え合いや学び合いが広がり、主体的な学習が進み、研究主題に迫ることができるものとする。今後も学校全体でこの実践に取り組み、子供のもっている素直な発言、反応、考えを大切にしながら「できた喜び」を分かち合える授業展開に努めていきたい。

6 おわりに

特別支援学級の担任として、今後もきめ細やかな指導・支援を実践し、子供たちがたくさん成功体験を味わえるような機会をつくり、自立と社会参加へ繋がる懸け橋となれるように関わっていきたい。

また研究主任としては、子供たちから「先生の授業は楽しい」「できないことができるようになった」という声が多く寄せられる授業を展開するため、教材研究に励み、学校全体へ発信していきたい。

今後も子供たちの人生を預かるという自覚と責任を持ち、一人一人の個性を大切にしながら関わり続け、「できた喜び」を一緒に共有できるような存在でありたいと思う。

共感と共考

県立千葉特別支援学校教諭 そのはら 園原 たろう 太郎



「先生、今日も鬼ごっこをやりましょう。」
「△△先生、〇〇さんはどうして授業中立ち上がっているのでしょうか。悩んでいます。」
「〇〇さんがトイレで初めて成功しました。」

これらのやりとりは特別支援学校でよく見られる内容である。私はここに特別支援学校の魅力があると考えます。昨今、特別支援学校に限らず教職を目指す人が減少していると言われている。現場で働く私たちにとっては悲しい現状である。今一度、特別支援学校で働く意義や魅力について考えてみたい。

【子供たちとの共感】

私には忘れられない出来事が2つある。1つ目は、運動が苦手なAさんとの出会いである。学習集団の中でAさんだけが平均台を渡れず、いつも泣いて悔しがっていた。毎日練習して、ようやく1m渡ることができた。よほど嬉しかったのか、私に抱き着いて「やればできるね。」と言って喜んでくれた。「できた。」という喜びを「やったね。」とAさんと共感できた瞬間であった。2つ目は、話好きのBさんと発語がないCさんとのやりとりである。ある日、Bさんが「Cさんはどうしてお話できないの。」と聞いてきた。私が「どうしてだと思おう。」と質問すると「分からない。」と答えた。私はあえて「そうだよね。また気になることがあったら教えてね。」と伝えた。数日後、Bさんが興奮して「Cさんが、『うー』って言いながら僕の手を引っ張って、絵本を取った。」と訴えてきた。Bさんが落ち着いたときに、その場面の振り返りを行った。するとBさんは「僕の絵本を貸してほしかったのかな。」とつぶやき、その後はCさんの要求に

「どうぞ。」と言って絵本を渡し、応えていた。そして「僕分かったよ。Cさんは手と声で教えてくれるね。」と得意気に言っていた。Cさんという友達を受け入れ、そのことをBさんと一緒に共感できた瞬間であった。

【同僚との共考】

特別支援学校には、多種多様の課題を抱えた子供たちが在籍している。日々、指導・支援方法を悩みながら過ごすことも少なくない。しかし、特別支援学校は複数の教師で指導・支援にあたることが多いため、相談できる環境がある。一人で抱え込まずに、相談しながら指導・支援を行うことができることは、教師の精神的不安を減らすだけでなく、子供たちの成長に繋がると考える。「教育に正解はない」という言葉があるように、同僚と一緒に子供たちのことを話し合いながら考え、成果が見られたら喜び、成果が見られなかったら、再考すればよいのである。「私はこう考えるけど、〇〇先生の意見も大切だよ。」とベストな答えを出すのではなく、その時にでき得るベターな指導・支援方法を見つけていく過程に魅力がある。

以上が私の考える特別支援学校で働く2つの魅力である。教師になって19年であるが、子供たちとたくさんの共感をし、同僚と様々な角度から共考してきた。悩むこともあったが、子供たちの笑顔や言動で救われたり、同僚の助言でモチベーションを高めたりすることができた。今後も目の前の子供たちや同僚と一緒に学校生活を送り、共感と共考を繰り返しながら、子供たちの成長を見守っていく所存である。

子供の「やりたい!」「やってみたい!」を目指して

香取市立山田小学校教諭 **もり 森** **たつや 達也**



1 教師を目指したきっかけ

「じゃあ、やってみる?」

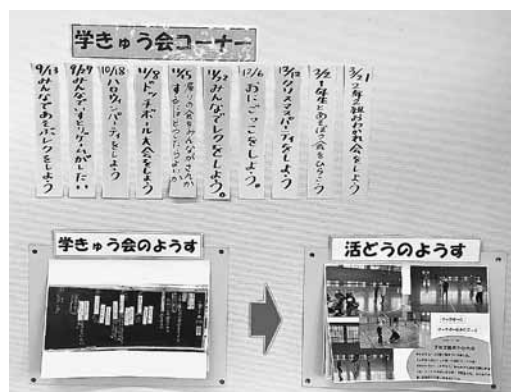
私が教師を目指すきっかけになったのは、小学校の時の担任から言われた言葉だ。学級通信を自分で書いてみたいと思い、担任に伝えてみると、「いいよ、やってみよう。」と言われた。それ以来、自分が認められた気がして、学級通信はもちろん、様々な場面でいろいろアイディアを出すようになった。自分が提案した企画で活動ができることは楽しく、友達が喜んで参加する姿を見て嬉しかったことを覚えている。もちろん、学校生活はとても楽しいものになった。このことがきっかけとなり、子供たちが何かに自信をもったり、得意なことをみつけたりする手助けをしたいと考え、教師を目指すようになった。

学校生活は、「〇〇してみたい。」「〇〇やってみたい。」と子供たちが自分たちで楽しくしていくものだと思う。そのために、いかに教師が動くかが大切なのではないかと常日頃から考えている。やらせるのではなく、自分から「やりたい!」と言えるようにするために、どう手立てを打てばよいのかを考え、これまで指導してきた。

2 学級会での実践

子供の「やってみたい。」を実現するために考えたのは、学級会の話し合い活動を充実させ、自分の意見を積極的に伝えられるようにするということだ。自分の「やってみたい。」という思いを自信をもって伝え、主体的に活動できるようにするためには、学級会での話し合い活動の経験を重ねることは大変重要である。さらに、話し合いの中で人間関係が構築され、学級のよりよい雰囲気づくりも期待でき

る。初めは話し合いに参加する子供も数人だったが、回数を重ねるごとに、しだいに意見を伝えられるように子供たちが成長してきた。さらに、自分がやりたいことだけでなく、「友達全員が楽しい気持ちになるか。」を意識して意見を言えるまでになった。低学年の子供たちでも、相手を意識し、思いやりをもって関わり合えることに感心した。また、学級会や日頃の活動の様子を掲示したことで、自分自身が成長できたことの喜びを感じ、子供たちがより積極的になっていったと感じる。



教室に掲示した学級会や活動の記録

3 教師のやりがい

教職の仕事に就いて4年目の今でも、子供から「授業が楽しかった。」という言葉を引き出すことはとても難しいものだと感じる。それでも、その一言のためにたくさん準備し、子供のことを考えている時間はとても有意義なものだと私は感じる。それは、教師が、子供の可能性を開花させる手助けができる特別な仕事だからだ。「できた!」「わかった!」「やってみたい!」の言葉と笑顔あふれる子供の姿には、他の何にも代えられないやりがいがある。これからも、大切な子供たちのために精進していく。

AIにはできないであろう職業、教員

市原市立姉崎東中学校教諭 たけした 竹下 さや 沙耶



1 はじめに

私が教職を目指そうと決意したのは、高校での進路選択の時であった。自分自身にとって身近な職業を考えた時、いつもそばにいて支えてくれていたのは、「先生」だったと気付いた。小学校、中学校、高校、大学を振り返ってみても、今まで出会った先生方のおかげで様々な経験ができ、成長することができたと思っている。どの先生方も生徒だった私と真剣に向き合ってくださった。そのような先生方のように、一人一人と向き合える教員になりたいと思った。

2 教職の魅力

(1) 生徒との関わり

教職の一番の魅力は、生徒を傍らで支え、その成長を感じられることだと思う。昨年度から学級担任として生徒と過ごしている中で、自分たちの学級がより過ごしやすくなるようにそれぞれが考えたり、話し合ったりする姿を見ることができた。どの生徒も初めは自分の意見をうまく伝えることができずに、自信をなくしていることもあった。しかし、生徒と向き合い、一緒に考えることで、考えがまとまり、自信に繋がっていったように見えた。また、様々な役割にもチャレンジすることを薦めた。リーダーシップがとれる生徒に対して、リーダーを支える側の立場を経験してもらったり、今まで班長を経験したことがない生徒にやってもらったりと、多くの生徒にいろいろなことをチャレンジしてもらった。そのチャレンジを経て、自分に向いていることや自分にとって難しいことは何かを気

付くことができる生徒が増えた。その気付きから、次は自分に何ができるのか、どのようなことをしたら良いのかまで考え、みんなの為に行動できる生徒が増えてきたと感じる。このように、生徒が自分自身のことを自分で気付くことができたことは、大きな成長だと思う。

(2) 経験が自信に繋がる

教員の業務は、学習指導や生徒指導だけではなく、様々な校務分掌にも取り組む。私が担当した校務分掌は、出席簿や視聴覚関係であった。特に視聴覚関係は、生徒や先生方のタブレットに関する重要な役割であったと思う。近年、ICTを活用した授業が行われているが、タブレットや電子黒板等をもっと有効に活用した授業が展開できないかと悩む時もあった。しかし、先生方との情報交換や研修の中で、様々な活用方法を学ぶことができ、授業にも活用することができた。電子機器に詳しくなかった私も、校務分掌を通して学ぶことができ、また、活用できるようになって自分の自信に繋がった。大変な役割でもあったが、経験ができて良かったと思う。

3 おわりに

ニュースやSNSでは、教員の多忙感や責任感について話されている。そのため教員を目指す人が減少している。しかし、未来を担う生徒の人生に身近であり、影響力も強い存在である教員をAIには代えられないと思う。嬉しいことや悲しいこと、悩んだことを一緒に共有し合えるのは人間の特権だと思うからだ。

楽しく前向きに取り組める授業を目指して

鴨川市立天津小湊小学校教諭 いしい ゆか 石井 佑佳



1 ことばの教室の担当になって

ことばの教室の担当となってから3年目となった。現在28名の児童を担当しており、本校での指導の他に2校を巡回指導している。それまでは学級担任をしており、ことばの教室でどんな学習をしているのか分からず、不安な気持ちが大きかった。そこで、まずは前担当者の指導方法を真似することから始めた。

ことばの教室に通う児童の課題は、音の置換、歪み、混同、吃音、緘黙等様々である。担当になり1年目の時、[カ]行が[タ]行に置換する1年生の児童がいた。[カ]音を導くために「水なしうがい→『カー』と音を出す」といった練習を行っていたが、発音の一手手前の所で、中々うまくいかずに苦戦していた。うまくいかなくても頑張りを認める声かけを続けたり、家庭にも協力を得て練習に取り組んでもらったりした結果、ある日の練習で突然[カ]音が出せるようになった。「今の音が[カ]の音だよ！言えた！」と、自分のことのように嬉しかったのを覚えている。担任にも報告をして褒めてもらい、その児童も満足げな表情をしていた。それまでは指導方法が児童に合っているのか分からず悩んでいたが、その経験から練習方法を一緒に探っていけばよいと思うようになった。本来、自然と身につく発音も、こつこつと練習をして言えるようになった児童にしか味わえない喜びがある。また、ことばの教室の担当だからこそ、その喜びを共有できると感じている。

2 授業で心がけていること

授業では「児童との関係づくり」「楽しく

前向きに練習すること」を特に意識して取り組んでいる。まず、児童との関係づくりのために授業のはじめに数分の「お話タイム」を設けている。学校や家庭での楽しかったこと以外に、時には、困っていることや悩んでいることを話すこともある。児童の話にじっくりと耳を傾けることを心がけている。

ことばの教室では、児童自身にとっては苦手なことを練習しているため、楽しく前向きに取り組むことができる授業を心がけている。例えば、10回練習するごとに色塗りやおはじきを置いて頑張りが目に見えてわかるようにする、3回練習したらサイコロを振る等、遊びの要素も取り入れて練習をしている。また、教材を児童と一緒に作成することもあった。児童の好きな動物をモチーフにして、アイテム集めをする教材と一緒に作成し、練習をしながら楽しく活動した。児童自身が作成したことで、意欲的に取り組む様子がみられた。

3 通級指導のよさ

通級指導は、個々に合わせた進度や内容で学習をすることができる。学級で落ち着かない児童も、個別指導では集中して取り組むなど、普段とは違った態度や表情をみせることもあり、新たな一面に気づくことがある。個々に合わせた学習を考えるのに悩むこともあるが、一方で、言語指導は教科書がないからこそ、自分で授業をつくりあげる楽しさがある。「ことばの教室が楽しみ」と言ってくれる児童のために、今後も一人一人と向き合い、楽しく前向きに取り組める授業づくりをしたい。

幼児とともにつくる保育

浦安市立舞浜認定こども園教諭 片山 遥



1 はじめに

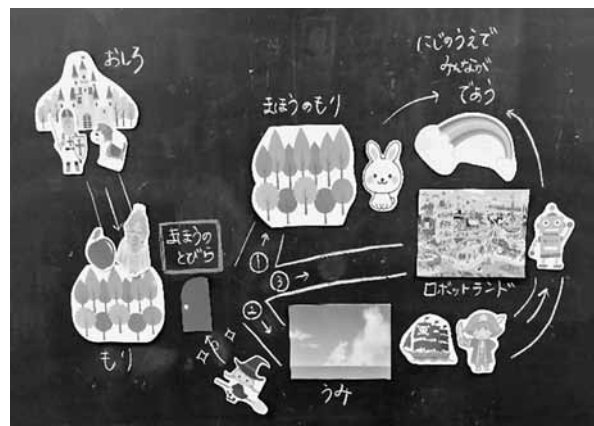
幼稚園教育要領では、幼児の発達に即した主体的・対話的で深い学びの視点から幼児の遊びを捉え、指導に生かすことが示されている。ここでは、昨年度に担任をしていた年長学級（5歳児）の表現発表会に向けた取組を紹介する。

2 年長表現発表会に向けた取組

10月上旬に運動会を終え、学級のみんなで力を合わせる楽しさや、やり遂げたことへの満足感を味わっていた頃、表現発表会に向けた最初の活動として、内容や題材、なっていたものなどを自由に出し合う機会を設けた。その中にはストーリーに一貫性がなかったり、自分たちの力で実現するには難しいアイデアが含まれたりしていたが、あえて方向性を一つに決めるようなことはせず、どのようなアイデアでも肯定的に受け止め、安心感や意欲をもって主体的に取り組む楽しさを味わうことを大切にしたい。

学級での話合いを何度も重ねていく中で、お姫様、剣士、魔法使い、海賊、犬、うさぎ、ロボットが出てくる創作劇をすることになった。そこで、色々な種類の絵本の読み聞かせを通してイメージを広げたり、4～5人のグループでアイデアを出し合ったりと、実態や活動に応じて環境の工夫を行った。すると次第に「ここに魔法の扉があるってことにして…」「夢の世界では、動物たちやロボットもお話ができるっていうのはどう?」「剣士がお姫様を探すには、仲間が必要だよ!」「最後はどうやってみんなが会えることにする?」と

持ち前の空想力を生かして物語作りを楽しむようになっていった。また、個々のアイデアを一枚の絵にまとめ、登場人物はペーパサートにして掲示をすることで、自分たちで登場人物を動かしながら物語の展開を確認したり、辻褄が合わない箇所は修正しようとしたりする姿も見られるようになった。



みんなのアイデア（ストーリー）を図にまとめたもの

物語の大筋が決まってからは、話の流れに合わせて自分なりの動きをつけたり、台詞となる言葉を考えたりしながら劇としての表現活動を楽しんだ。また、劇中に必要な大道具や小道具は、役の友達と相談しながら協力したり、個々のイメージを膨らませ、絵に描いたりしながら、自分たちなりのこだわりをもってつくり上げる姿が見られた。

3 おわりに

同じ学年の同時期であっても、当然、その年によって幼児の実態は異なる。幼児と同じ目線に立ってともに保育をつくり、その過程を一緒になって楽しめることこそが、教職の魅力なのではないかと感じている。

「給食があるから学校生活が楽しい」を目指して

習志野市立大久保東小学校栄養教諭 うえだ 植田 あつこ 敦子



1 はじめに

本校は、令和4年度からの2年間、地域における食育指導推進事業の指定を受け、「学校給食と教育活動を深く関連付け、児童の学校生活をより充実したものにするための食育指導の工夫」をテーマに、様々な取組を行ってきた。このテーマは、私が学校に勤めることになってからずっと心に決め思い描いているもので、栄養職員・栄養教諭の立場からできることや可能性を模索しながら進めているテーマである。今回は、令和5年度に行った取組の一部を紹介したい。

2 給食委員会の児童と目標を共有する

給食委員会の活動を通して、食べ物や食べることに興味・関心をもつ児童を増やし、食事を楽しむ心豊かな学校を作ろうとする力を育てたいと考えた。そこで、児童に給食委員会のグランドデザインを示し、「大久保東小学校の給食を、より楽しくより盛り上げるためにできることは何だろう」と問いかけ、給食から発信できる取組を、児童と共に考えた。活動を通して、「給食が楽しいから学校に行きたい」「給食があるから学校生活が楽しい」とみんなに思ってもらえると嬉しい、という思いと、それを実現させるために、同じ目標で一緒に活動していきたいということも児童に伝えた。

3 給食総選挙を盛り上げよう！

年間計画で、1月に給食総選挙を行うことが決まった。児童の発案で、食べ物の党を立ち上げ、それぞれの党の候補者に投票する方

法で行うことになった。給食総選挙を盛り上げるには、全校のみんなが投票したいと思えるような宣伝が必要になる。そこで、候補者のキャッチフレーズを考え、ポスターを作成することにした。



上：各党候補者（料理）のポスター

下：給食総選挙の結果

党	候補者	票数	党	候補者	票数
パン党	きなこ揚げパン	110	お肉党	からあげ	126
	ココア揚げパン	104		コーンフレーク焼き	87
	ガーリックトースト	43		照り焼きハンバーグ	45
カレー党	チキンカレー	166	デザート党	炭酸フルーツボンチ	195
	ポークカレー	68		ヨーグルト	39
	ドライカレー	28		ゼリー	20

※無効票あり（全校の61.6%の人が投票に参加）

児童は、例えば「お肉党」のコーンフレーク焼き（候補者）ならば「自分にごほうびカリカリ食感!」、「デザート党」のゼリー（候補者）ならば「ゼリーにときめきを閉じこめました」など、その料理の特長をつかみ、食品の栄養素を調べながら発想豊かにキャッチフレーズを考えた。ポスターの宣伝効果も上がり、給食総選挙は全校児童が関わる自治活動として期待以上の成果を上げることができた。

4 おわりに

学校には毎日給食があり、私たちはその給食を学校教育活動に最大限に活かすことができる。これは、とても魅力のある仕事ではないかと思う。これからも、児童との関わりを深め、「給食があるから学校に行きたい」「給食があるから学校生活が楽しい」と思ってもらえるよう、共に考え取り組んでいきたい。

養護教諭の魅力

長生村立八積小学校養護教諭 まえはし 前橋 さや 沙耶



1 はじめに

養護教諭として勤めて、講師経験も含め本年度で10年目になる。地元の長生地区での講師経験を経て、山武地区で採用になり2校経験させていただいた。現在の八積小学校に異動して2年目となる。長生と山武は、隣あった地区だが、健康診断の実施方法などにこんなにも違いがあるのかと驚いた。前任校では、ちょうど新型コロナウイルス感染症が新たな感染症として広がった時で、まだ誰もが分からない未知のウイルスをどのように予防し、対策すべきか悩むことが多くあった。それでも、同僚や同じ地区の先生と対応を考え対処してきた。そのような経験を積み、今の実践につながっていることを実感している。

2 養護教諭の魅力とやりがい

(1)いろいろな表情をみせてくれる子供

養護教諭の魅力として真っ先に思い浮かんだのは子供たちの笑顔だ。「先生！もう痛くありません」「昨日はありがとうございました」「この間の傷、だいぶ治ってきました」子供たちからのうれしい報告とお礼の言葉。そしてニコニコ笑顔。私が養護教諭として「良かったな」と思う瞬間だ。しかし、いつも子供たちの笑顔が見られるわけではない。ただ泣きながら保健室に来室する児童や「教室に行きたくない」と訴える児童。家庭の問題を抱える児童。保健室を頼ってきてくれた思いに、そっと寄り添い、話を聞く。話を聞いていただけなのに、「少し話せてスッキリしました」「また聞いてください」と、保健室を後にする児童。その言葉と少し柔らかくなった表情

に、私が救われた気持ちになる。「先生暇そうだからきてあげたよ」「先生私怒ってるんだけど!」と、いろいろな話をしにくる児童。子供たちのいろいろな表情をみることができるのは、養護教諭だからだと思う。

(2)やりがいを感じる瞬間

養護教諭は心身の健康面から、全校児童と関わり経年的に成長を見守ることができる。これも養護教諭の魅力とやりがいの一つだと思う。健康診断等で成長を見守り、子供たちが悩みながらも日々頑張っている姿を身近で見えて感動をもらい、同じ時を過ごせることに幸せを感じる。また、児童が抱える様々な問題に、先生方や家庭と連携しながら、子供たちの「できた」「やれた」「乗り越えられた」瞬間を見た時、喜びを共有し合えた時、とてもうれしくなる。もちろん、うれしいことばかりではない。時には救急車を要請するような場面や、複雑な問題を抱える児童の対応に頭を悩ませる。自分の手当てや対応、言葉が、本当に正しかったのか悩む時もある。そんな時は、先生方に相談し、一人ではないとすることができる。そうして、たくさんの子供たちに「心身の健康面」から関わることができ、子供たちの笑顔や成長した姿に、「養護教諭になれてよかった」「養護教諭で良かった」と、大きなやりがいを感じるのだ。

3 おわりに

現在、養護教諭の仕事は多岐にわたる。保健室がどうあるべきか、子供たちのために今何ができるかを考えて、これからも養護教諭として頑張っていきたい。

チーム学校の一員として ～学校事務職員の魅力～

長柄町立長柄小学校主事 あきば 秋葉 ななみ 七海



1 はじめに

私は高校を卒業してすぐに学校事務職員として採用され、令和6年度で7年目となる。

高校時代の部活動で野球部マネージャーとして活動していたこともあり、子供たちや先生方が活躍する「学校」を支える仕事をしたいという思いから、学校事務職員を志望した。

2 学校で働くことができる行政職

行政職でありながら学校で働くことができるのは、学校事務職員だからこそ魅力である。

令和5年度まで勤務した九十九里小学校は、全校児童が約100人の小規模校だ。職員数も少ないため、学校にいる大人の一人として子供たちと直接関わる機会が多くあった。学校探検での案内用に似顔絵を書いてもらったり、外国語のインタビュー相手として子供たちと英語で会話したり、学校で働いているからこそ得られた体験がたくさんある。

子供たちの成長を間近に感じられることが、仕事への原動力となっている。子供たちが過ごす学校をより良い環境にしてあげたいという思いが、仕事に対する高いモチベーションを維持できる要因となっている。

3 学校運営への参画 ～業務改善～

学校現場の働き方改革が強く求められている中で、事務職員は学校組織における唯一の行政職であり、専門性を生かした学校運営への参画が求められている。

九十九里小学校に着任してからのテーマは、

「事務職員として学校のために（先生方や子供たちのために）何ができるか」だった。そこで、先生方が子供と向き合う時間を確保するための環境整備として、事務負担軽減を図ることを目標に掲げた。主な取組を2点挙げる。

(1)学校徴収金の支払方法について、現金からネットバンキングによる送金へ移行することで、管理の透明化及び担任による支払業務の軽減を行った。

(2)学校評価アンケートについて、Formsを使用したWeb回答を導入することで、担任や管理職の回収・集計業務の軽減を図った。

事務職員として業務改善を図ることで、先生方と子供たちの楽しく活動する時間を増やすことが、私のやりがいの一つである。

4 おわりに

私は地元である東上総地区に採用されたため、小中学生のときにお世話になった先生方と再会して一緒に働くことができた。また、初任校が事務職員2人配置の学校だったため、先輩と一緒に働きながらたくさんのかを学ぶことができた。

令和6年度からは休暇等補助という立場で様々な学校で働くことになるが、たくさんのかの出会いを大切にしながら、子供たちにより良い学びの場を提供するために、チーム学校の一員として学校運営に参画していきたい。そして、先輩たちがそうだったように後輩事務職員の手本となる存在を目指して精進していきたい。

子供たちの教育に携わる魅力について

健康福祉部児童家庭課・兼教育庁児童生徒安全課副主査 きみづか 君塚 えみ 恵美



1 学校教育現場での勤務について

私は児童福祉の専門職として千葉県に入職し、令和5年4月から学校現場等と児童福祉の人事交流の一環として、県内の小学校での勤務がスタートした。教育現場で私自身が行う業務は、拠点校での業務、近隣校での業務、緊急対応が必要な場合の業務に分けられている。昨年度は主として拠点校での授業の補助や児童との関わりを行うほか、担任教諭と保護者の面接に同席することや、家庭に対する不安や悩みを抱える児童との面接を行った。また学校内で、特に虐待事案や児童の問題行動に関する事案が発生した場合は、児童相談所をはじめ関係機関との連絡調整を行ったり、ケース会議に参加して家庭や児童の支援に関する助言を行ったりした。毎日が手探り状態であったが、校長先生をはじめ、先生方に支えられ、1年間を過ごすことができた。

2 教職員の魅力について

そのように全く新しい環境に身を置いて過ごした日々であったが、小学校での勤務は充実していたと実感している。それは児童が教職員との信頼関係の中で、自分のもっている力を最大限に伸ばしていこうとする姿をたくさん見ることができたからである。例えば、児童が登校して朝一番に教職員のところに行って宿題を頑張ったことを報告したり、授業の中で問題を解けるようになったとノートを見せたりした時に、教職員が「一生懸命頑張っているね。」「学習に前向きに取り組んでいてカッコいいよ。」等声を掛けることで、児童は教職員が頑張りをを見ていてくれるとい

う安心感をもって、さらに前向きに学習や学校生活に向かおうとする姿を見ることができた。学校行事では、教職員は高学年を中心に行事を主導できるように働きかけていた。また、高学年が低学年への関わり方で困っている時には、寄り添いながら支援していた。児童も役割や責任を自覚することで、生き生きと自分の仕事に取り組み、行事が成功した際は、充実感と達成感にあふれた表情を見せていた。児童から「先生、頑張ったらできるようになったよ。」という言葉の聞いたり、「大変だったけど、行事が成功してすごくうれしかった。」と話してくれたりした時は、児童の努力が実ったことや成長の喜びを共有できたことに大きなやりがいを感じた。

3 まとめにかえて

教職員は、児童に身近な立場で継続的に接する大人として、リスクのある児童や家庭の見守り、それに伴う関係機関との連携等、担う役割が非常に多岐に渡っている。そのため、日常的に児童に接することに大きな責任を感じることもあるのではないかと思う。しかし、先生方は日々児童のことを第一に考え、授業準備をしたり、行事の企画や準備をしたりし、毎日の学習指導、生活指導に取り組んでいる。学校生活の中で児童の表情を見てみると、その気持ちは児童にしっかりと伝わり、成長しよう、前に進もうとする推進力になっていると感じた。そのような関係性を築けることこそが、教職員の魅力であると実感しつつ、その一員として携われていることに大きな喜びを感じている。

<<令和5年度長期研修生 研究主題一覧>>

県総合教育センター研修企画部
(所属校は令和5年度)

番号	研修内容	氏名	所属校	研究主題	掲載号
1	国語	西林 沙紀	松戸市立第四中学校	社会を認識し思考する力を育てる語彙指導 ー継続的に語彙に目を向ける指導を基盤としてー	菊
2	国語	加藤 美幸	大網白里市立大網東小学校	自ら表現様式を選択し継続して表現する児童の育成 ー個別最適な学びを大切にする新聞づくりを通してー	梅
3	国語	西谷 真澄	睦沢町立睦沢中学校	情報を関連付け考えを形成する読むことの学習指導 ー「英雄」を論じるテーマ読書を通してー	萩
4	国語	池田 真美	勝浦市立上野小学校	ESDに基づく国語科の地域単元の開発 ー多面的に情報を活用し他者とのコミュニケーションを重視してー	菜
5	社会	武藤 紗耶香	八千代市立阿蘇米本学園	批判的思考力を高めるための社会科学学習の在り方 ーダブルループ学習を組み込んだ地理的分野「関東地方」の学習を通してー	蓮
6	社会	波田地 翔	柏市立松葉中学校	責任ある意思決定を行う自立した市民の育成を目指す社会科学学習 ー地域の在り方を批判的に捉える対話的な学びを通してー	菊
7	社会	宮森 健治	市川市立大野小学校	問題解決の見通しをもち、問い続ける子供を育てる社会科学学習	萩
8	社会	南部 伊織	山武市立成東小学校	主体的に学び、仲間と協働して納得解を導き出そうとする児童の育成 ー社会科学学習におけるICTの活用を通してー	梅
9	社会	齊藤 雅人	市原市立牛久小学校	地域教材を活用し、郷土への誇りを育む歴史学習の在り方 ー博物館の資料をもとに中央史と上総の国の関わりを学ぶ活動を積み重ねてー	菊
10	社会	吉岡 志隆	鴨川市立田原小学校	海外日本人学校との交流を通じた社会科における国際教育 ーマノリリティとマジョリティの視点からー	菜
11	算数	柴田 政之	市川市立二俣小学校	自分なりの結論の妥当性について批判的に考察する力を高める学習指導 ー統計的探究プロセス（PPDACサイクル）の実現を目指してー	菊
12	算数	村岡 大地	松戸市立松ヶ丘小学校	数学のよさの感得の様相を捉える枠組みに基づく学習指導 ー小学校第4学年「概数」の実践を通してー	蓮
13	算数	梶原 太志	印西市立原小学校	統計的な問題解決における多様な考えを生かした指導 ー「分析」と「結論」の過程に着目してー	菜
14	算数	池永 卓司	袖ヶ浦市立中川小学校	図形の性質を活用して数学的な見方・考え方を働かせる児童の育成 ー第5学年「面積」の指導を通してー	梅
15	理科	葭葉 彩子	船橋市立海神南小学校	小学校5年「物の溶け方」「電流がつくる磁力」における 学びの有用性を高めるための個別型探究学習の推進	菜
16	生活	足立 亜伊	袖ヶ浦市立昭和小学校	「自然や物を使った遊び」の単元開発 ー児童と教師が共に学習内容をつくり出していく授業の在り方ー	萩
17	音楽	大塚 咲子	船橋市立小室中学校	生徒が感性を働かせて表現を創造する歌唱指導の追求 ーESDの視点を取り入れた音楽科における題材開発を通してー	菜
18	音楽	三幣 望未	館山市立神余小学校	一人一人が思いや意図をもち、表現を高めていく学習指導の在り方 ー協働しながら音楽づくりをすることを通してー	菊
19	図画工作	有福 絵里加	八千代市立睦小学校	造形遊びの定着を目指した素材と場所、教師の役割の設定 ー図画工作科においての地域のRemidaを目指してー	萩
20	図画工作	佐久間 洸一	市原市立水の江小学校	題材の評価規準から児童の姿をイメージ・共有することの有効性の検証 ー下学年の造形遊びにおける実践を通してー	梅
21	体育	牧口 真也	我孫子市立我孫子第三小学校	技能力向上を目指した体育学習の在り方 ー自己指導能力の育成に着目した陸上運動領域「投の運動」の授業実践を通してー	菜
22	体育	日笠 良太	佐倉市立間野台小学校	共生の視点を重視したゴール型サッカーの学習に関する研究 ーアダプテーション・ゲームにおける児童のゲームパフォーマンスに着目してー	萩
23	体育	椿 琢磨	香取市立栗源小学校	コーチングスキルを活用した自己効力感を高める体育学習の在り方 ーベースボール5の教材化を通してー	梅
24	体育	永野 和哉	茂原市立萩原小学校	体育ポートフォリオを活用したゴール型ハンドボール学習の研究 ー児童に自己の伸びを実感させる手立てに着目してー	菊
25	体育	平島 和弥	館山市立館山小学校	鉄棒運動に親しむことができる児童の育成 ーマット運動と鉄棒運動に共通する知識や運動感覚を活用する指導を通してー	菜
26	技術・家庭	熊谷 光朗	八千代市立勝田台中学校	先進的な情報技術とのつながりによる技術観の育成 ースマート農業におけるドローン技術の活用に関心をあつた学習を通してー	梅
27	技術・家庭	阪田 真也	袖ヶ浦市立昭和中学校	生活上の問題を見だし、個に応じて課題を設定する力を高める学習指導法の研究 ー材料と加工に関する導入時の指導方法を通してー	蓮
28	外国語	上原 美咲	柏市立柏の葉中学校	中学校英語授業におけるリテリング指導 ーブランニングからプロダクションにとどまらない再話を目指してー	梅
29	外国語	野澤 敬子	流山市立八木中学校	コミュニケーション・ストラテジーを意識させた帯活動の実践 ー英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲を高める手立てとしてー	菜
30	外国語	水間 健太	市原市立国分寺台中学校	帯活動とオンライン交流授業を組み込んだ 「話すこと [やり取り]」の技能を高めるための授業モデルの開発と評価 ー英語科教員誰もが取り組める実践を目指してー	桜
31	小学校 外国語	直枝 祐樹	浦安市立富岡小学校	話すこと [やり取り] における主体的なコミュニケーション意欲の向上 ー第6学年における必要感をもたせたスキットの活用を通してー	梅
32	小学校 外国語	渡邊 志乃	茂原市立東郷小学校	英語音声と文字をつなげる明示的な音声指導の在り方 ー自ら気付き、発音できる児童を目指してー	萩

長期研修生報告

33	小学校 外国語	佐々木 有紀子	茂原市立本納小学校	中学校へつなぐ書くことの指導 — 一個に合った文字指導と小中連携による言語活動を通して —	菊
34	道徳	田中 大輔	浦安市立高洲中学校	自己の生き方について考えを深める道徳科の授業の実証的研究 — 納得解の紡ぎと、ルーブリックを活用した振り返り活動による学習改善を通して —	梅
35	道徳	橋本 舞佳	柏市立大津ケ丘中学校	生徒が「生き方の問い」を生む道徳科授業の研究 — 問いⅠ・問いⅡづくりによる生き方の探求を通して —	桜
36	特別活動	後藤 律子	船橋市立高根台第三小学校	児童のエージェンシー発揮を支援する特別活動 — AARサイクルの獲得を目指す学級活動を通して —	菊
37	学校・学年 ・学級経営	弓納持 裕	東金市立日吉台小学校	学級の心理的安全性の醸成 — 教員のリーダーシップ行動向上シートの実践を通して —	菜
38	生徒指導	鈴木 信也	旭市立飯岡小学校	援助希求的態度を育成する生徒指導の実践 — 開発教材による授業実践と児童理解を深める校内研修を通して —	菊
39	現代的 教育課題	小林 郁和	柏市立大津ケ丘第一小学校	地域との協働学習による児童の情報活用能力の育成 — 1人1台端末を活用したGoogleサイトを用いたウェブサイト制作を通して —	桜
40	現代的 教育課題	上園 雄太	野田市立七光台小学校	小学校段階におけるクリティカル・シンキング教育の実践 — 教科等横断的な視点でのGoogle Classroomの活用を通して —	梅
41	発達障害	高橋 裕子	県立鎌ヶ谷西高等学校	発達障害の可能性のある生徒のための、 高等学校普通科で自己理解を深め進路決定を支援する方策 — 生徒が目標をもって高校生活を送り、見通しをもった進路選択につなげるために —	萩
42	病弱・身体虚弱 ・重度・重複障害	齋藤 瑞帆	県立仁戸名特別支援学校	病気療養児の復学を見据えた病弱特別支援学校と小学校の連携 — 事例の検証を通して —	菊
43	知的障害	江澤 加奈	県立飯高特別支援学校	自己有用感を高めるための指導・支援に関する研究 — 総合的な探究の時間（地域学校協働活動）を通して —	桜
44	インクルー シブ教育	新宮 晃	県立東金特別支援学校	知的障害特別支援学校における継続的な居住地校交流の進め方について	菜
45	特別支援 教育課題	中村 真里	県立特別支援学校 市川大野高等学園	知的障害特別支援学校（専門学科・職業コース）における効果的な教育相談の在り方 — 「チーム学校」としてスクールカウンセラーを効果的に活用するために —	梅
46	特別支援 教育課題	河名 俊	県立大網白里特別支援学校	特別支援学校に在籍する児童生徒の自助・共助の力を高めるための防災教育の在り方	萩
47	特別支援 教育課題	鈴木 真紀	県立安房特別支援学校 館山巒分校	保護者の援助要請を導く支援スキルの在り方について — 保護者の援助要請行動が変容するプロセスに着目して —	桜
48	特別支援 教育課題	西村 啓太郎	船橋市立業門台小学校	ユニバーサルデザインの視点を活用した協働的な授業の探究 — 全ての児童が学びやすい環境、指導方法とは —	菊
49	特別支援 教育課題	吉川 祐子	松戸市立小金北中学校	中学校通常の学級における意思の表明を起点とした合理的配慮の提供の在り方 — 特別支援教育コーディネーターの学級担任支援を通して —	萩
50	特別支援 教育課題	古川 幸夫	柏市立風早中学校	1人1台端末を活用した自立活動の指導の充実 — 指導者及び生徒が活用可能なツールの検討 —	桜
51	特別支援 教育課題	力丸 真紀子	印西市立原山中学校	中学校通常の学級「外国語」授業における生徒の注意集中の変容 — 授業のユニバーサルデザインに基づく支援の手立てを通して —	萩
52	発達障害	内山 泰	山武市立南郷小学校	自閉症・情緒障害特別支援学級の児童が肯定的な自己理解を深める支援の工夫 — 「自己探究プログラム」の実践を通して —	菜
53	教育臨床	赤尾 麻衣	県立市川工業高等学校	「ケース検討学習モデル」の提案	桜
54	教育臨床	石井 夏江	県立楨の実特別支援学校	「ケース検討学習モデル」の提案	桜
55	教育臨床	子安 裕佳里	県立長生特別支援学校	「ケース検討学習モデル」の提案	桜
56	教育臨床	佐藤 陽子	白子町立関小学校	「ケース検討学習モデル」の提案	桜
57	企業等派遣	久保 善啓	県立浦安高等学校	民間企業における社会動向と経営手法の実際の考察	梅
58	企業等派遣	福島 啓太	県立千葉特別支援学校	ホテル業界とともに考え学ぶ、障害者雇用	桜
59	企業等派遣	蘭牟田 明	県立東金特別支援学校	チームとして協働する組織づくりについて — 百貨店の研修で学んだ知見から —	菜
60	企業等派遣	小林 真	野田市立東部小学校	企業の経営手法から学ぶ学校教育目標具現化のためのマネジメント	萩
61	企業等派遣	大平 哲也	市原市立ちはら台西中学校	派遣企業から学ぶ組織マネジメントとホスピタリティ	萩
62	企業等派遣	金城 太希	県立楨橋高等学校	企業におけるICTを活用した地域連携と働き方改革	菊

- ・研修内容の教科等、特別支援教育、教育臨床については、教育コンテンツ・データベース「Wakaba」で閲覧することができます。
- ・千葉県総合教育センターWebサイトトップページ→学校支援／授業支援→学習指導案等で検索してください。

社会

批判的思考力を高めるための社会科学習の在り方

- ダブルループ学習を組み込んだ地理的分野「関東地方」の学習を通して -

県総合教育センター研究指導主事（前八千代市立阿蘇米本学園教諭） 武藤 紗耶香

日々の実践の中で、生徒の批判的思考力を育成することは社会科の使命でもあると感じたことが、本研究を始めたきっかけである。本研究では、批判的思考力の育成に有効な社会科学習の在り方を明らかにするため、自分自身の考えやそこに至るまでのプロセスを見直すことを促すダブルループ学習を組み込んだ単元モデルを考案し、中学2年生を対象に授業を実施した。その結果、「最善の結論を見出すための視点で考えること」と「反省的な思考を巡らすこと」につながり、批判的思考力の高まりが見られた。

本単元モデルは、他の単元でも活用できるモデルであるため、授業で広く活用していただき、今後の千葉県を担う子供たちの成長につながれば幸いである。

算数

数学のよさの感得の様相を捉える枠組みに基づく学習指導

- 小学校第4学年「概数」の実践を通して -

松戸市立松ヶ丘小学校教諭 村岡 大地

算数科における情意面の課題は、継続的に報告されている。ともすると知識・技能の定着ばかりが重視される算数科において、「算数はおもしろい」と児童が実感するために、数学のよさの感得に着目した。しかしながら、よさの感得は目には見えない。そこで、「数学のよさの感得の様相を捉える枠組み」を作成し、小学校第4学年「概数」の単元において、枠組みに基づいて児童を見取り、児童の様相に応じた言葉掛けを行った。また、指導計画上によさを位置付け、単元を通して枠組みに基づく学習指導を行うだけでなく、よさが明示的になる比較や振り返る場面の設定も取り入れた。その結果、学力差に関係なく多くの児童が数学のよさを感得できた。今後は作成した枠組みが他の単元でも有効か検証する。

技術・家庭

生活上の問題を見だし、個に応じて

課題を設定する力を高める学習指導法の研究

- 材料と加工に関する導入時の指導方法を通して -

木更津市立木更津第二中学校（前袖ヶ浦市立昭和中学校）教諭 阪田 真也

科学技術が急速に発展する現代、どのように作るか等の「方法」以上に、何を作るか、何のために作るのかという「目的」を考えることが、これからの子供たちに必要不可欠な力になると考える。そこで、生活上の問題を見だし、個に応じて課題を設定する力を高めるために、中学校第1学年を対象に、材料と加工における導入題材の製作を通じた学習の指導法に工夫を講じた。実践的推論プロセスを用いた導入時の試作品・構想物の製作を通じて、知識・技能、見方・考え方、技術的な視点を養うことで、身近な生活の中から自己や家族に関する問題を見だし、解決に向けて個に応じて課題を設定する力を高めることができた。今後はこの一連の学習の流れを他の内容にも適用させ、効果を検証したい。

「カリキュラムサポート室」の御案内 ～先生方の力量を高めるための支援事業～

県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発班

1 「カリキュラムサポート室」とは

カリキュラムサポート室は、視聴覚資料が揃うメディアルームと、図書資料を自由に閲覧できる3つのサポートルームの計4部屋からなっている。県総合教育センターの本館1階にあり、先生方が教師としての力量を高めるためのサポートを担う場所である。

大きく、3つの教育支援活動を行っている。個人の研修や、学校の課題解決に役立てていただきたい。

2 3つの教育支援活動の紹介

(1)豊富な資料の提供

様々な図書（教科書・教育書・教育雑誌）や視聴覚教材（情報モラル・防災教育・人権教育等）、研究報告書（県内外教育機関・県長期研修生研究報告書）、学習指導案等が取り揃えられている。

日々の教材研究や教育研究を行う際の先行研究調査等に御活用いただきたい。



(2)自主研修・グループ研修の場の提供

豊富な資料をもとに、各サポートルームで自主研修を行うことができる。事前に問い合わせいただければ、グループで研修を行うこともできるため、研修室を御利用の際は、御相談いただきたい。

(3)「いつでも どこでも オーダーメイド研修」

個人の課題について、日程・内容等を自分で決めることができるオーダーメイド研修である。カリキュラムサポート室開室日であればいつでも受講することができ、来室して対

面で受講するのはもちろん、オンライン（要相談）で、どこでも受講することができる。

詳細は、当センターWebサイトで確認いただきたい。受講を希望する場合は、研修履歴システム（Plant）から申し込むことができる。

3 カリキュラムサポート室 開室日時

【平日】9：00～16：45
(祝日、年末年始除く)

【令和6年度 7月以降の開室日】

20247

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

20248

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

20249

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

202410

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

202411

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

202412

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

20251

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

20252

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

20253

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

...平日開室日 9:00～16:45

【問合せ先】

千葉県総合教育センター

カリキュラム開発部研究開発班

(TEL) 043-276-1282

(FAX) 043-276-1472

(MAIL) soscurrenkenkyu@mz.pref.chiba.lg.jp

「授業づくり・学級づくりガイドブック」の御案内

県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発班

1 「ガイドブック」について

カリキュラム開発部研究開発班では、各教科・学校運営等に関する基礎的・実践的な調査研究と、社会の変化や本県の教育課題に即応した実践的な調査研究を行っている。調査研究の成果物として「授業づくりガイドブック」や「学級づくりガイドブック」等を総合教育センターホームページ上にWebアップしている。両ガイドブックは、先生方の日々の授業づくりや学級経営に役立つ資料となっていることから、御活用いただきたい。

2 「授業づくりガイドブック」について

(1) 概要

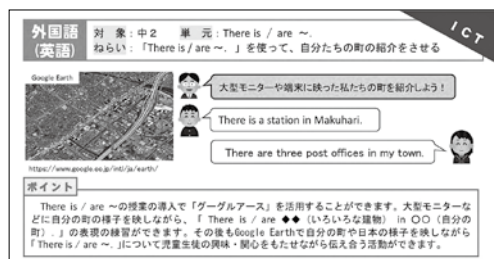
本ガイドブックは、児童生徒が「能動的に考える」授業を実践できるようにするための、授業づくりの「指南書」のようなものである。

(2) 内容

授業時における4つの学習過程（※「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」）における、具体的に効果的な「教師の働きかけ」を40例掲載されている。また、ICTを効果的に活用した最新の授業実践例を紹介している。授業を他教科でも応用できるような汎用性の高い活用例10例を示している。



【ガイドブック表紙】

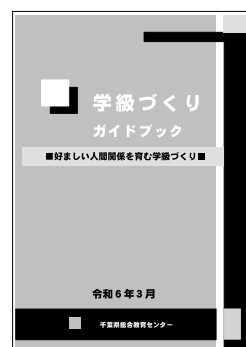


【ガイドブック内容の一部】

3 「学級づくりガイドブック」について

(1) 概要

本ガイドブックは、旧版（平成25年3月発行）の内容を大幅に改訂したものである。令和3年度から5年度までの3年間で行った調査研究「『好ましい人間関係を育む学級づくり』に関する研究」の成果をまとめたものである。



【ガイドブック表紙】

(2) 内容

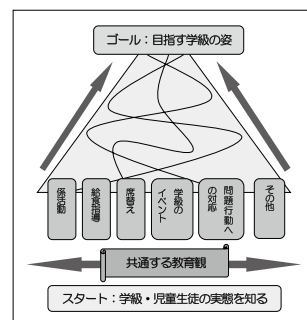
学級づくりにあたっての理論研究や実践事例の収集、また有識者の助言を基にまとめた内容となっている。

主に若年層を対象とした内容となっているが、学級づくりのために大切なポイントが網羅され、年代を問わず活用できるガイドブックとなっている。よりよい学級づくりのため

【目次】

- I はじめに（学級づくり理論）
- II 学級づくりの進め方
- III 学級開き
- IV 教師と児童生徒の信頼関係
- V 児童生徒同士の人間関係
- VI 主体的に活動できる学級
- VII 同僚・保護者との関係づくり
- VIII 資料

【ガイドブックの目次】



【ガイドブック内容の一部】

4 おわりに

まずは、下記の二次元コードを読み取り、ガイドブックを御覧いただきたい。

ガイドブックへとつながる二次元コード→



「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」について

県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発班

1 「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」とは

平成31年3月に、幼稚園教諭や小学校教諭等がお互いの活動を理解し、円滑な接続を図ることができることをねらいとして、「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン 5歳児の学びのカリキュラム スタートカリキュラム」を作成している。



【冊子表紙】

本冊子は、接続期のカリキュラムを「5歳児の学びのカリキュラム」と小学校における「スタートカリキュラム」に分け、それぞれのカリキュラムを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」でつなぐ構成となっている。多くの活動実践例が掲載されており、幼児教育や小学校教育に携わる先生方に活用しやすい内容となっている。

2 『接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン』の活用実践事例について

(1)概要

令和6年に「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」の活用実践事例をWebアップしている。モデルプランを「基となる事例」として、各園の実態に応じて、魅力的な活用実践事例を

- 「樽でできたよ！さつまいも」
～畑のない住宅街エリアでの実践～
- 「脱穀・もみすり体験」
～田植えから餅つきまで～
- 「秋」
～おみこしごっこをしよう～
- 「巧技台遊び 自分たちだけのスペシャルコース」～コースを作ろう！やってみよう！～
- 「自分達の力で作った電気でイルミネーションをつけよう」
- 「幼小合同研修会」

【「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」活用実践事例】

提示している。

本活用実践事例を参考にして、「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」を御覧いただきたい。

「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」の活用実践事例から1事例を紹介したい。

(2)活用事例

「自分達の力で作った電気でイルミネーションをつけよう」

モデルプラン「焼き芋会をしよう」では、畑で収穫した野菜に興味・関心をもたせるために「野菜電池」の実験を行った。本活用事例では、風力・水力・太陽光発電の実験キットを使って電力を作る実験を行っている。そして、



【ホームページより】

その後「自分達の力で作った電気でクリスマスツリーのイルミネーションをつけたい」という子供たちの思いを受け、園で開発した自転車発電機を使い、子供たち自身が一生懸命にペダルをこぎ、イルミネーションを点灯させた。見ている子供たちからは、大きな歓声があふれていた。

3 モデルプラン活用実践事例の掲載場所について

モデルプランの活用実践事例は、千葉県教育委員会や千葉県総合教育センターのホームページからダウンロードができるため、多くの先生方に御活用いただきたい。

「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」の活用実践事例 アクセス用二次元コード→



千葉県児童生徒・教職員科学作品展から全国展へ

県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育班

県総合教育センターでは、毎年「千葉県児童生徒・教職員科学作品展」を実施し、特に優秀な作品を全国展に出品している。以下、全国展で入賞した作品を紹介する。詳しくは各学校配付の千葉県児童生徒・教職員科学作品展「優秀作品選集」をご覧ください。

★第60回全国児童才能開発コンテスト科学部門

○中央審査会委員長賞

- ・「マメコブシガニの『子孫を残すための知恵』
ー水の生き物の研究3年目ー」

千葉市立緑町小学校 5年 中村 蒼太

審査評 興味のある題材を研究対象として、その行動観察や理由などを細かく検証している。自分の観察をもとにして検証を進めていく姿勢が素晴らしい。

○財団科学賞

- ・「切って たたいて 手作り楽き」

千葉市立みつわ台北小学校 3年 大川 瑞月

審査評 素材の形や太さ、長さによる振動数などの変化を多様に調べてまとめ、異なる金属で楽器を製作した。素晴らしい研究内容である。

- ・「クモの巣にきまりはあるの？～クモの巣について調べよう～」

千葉市立稲毛第二小学校 4年 吉岡 優真

審査評 7種類のクモの巣の形状や体長を調査、分析し、その結果から「巣の形状からクモの種類を特定するフローチャート」を作成した。

★第67回日本学生科学賞

○入選2等

- ・「護岸河川のイシガイ目貝類」

東邦大学付属東邦高等学校 3年

小野 亮太郎、白田 松太郎、松永 怜也

審査評 イシガイ目貝類がカゴマット工法

護岸に生息できる仕組みを、分布調査を基に仮説を立てモデル実験で検証し、明らかにしている。

○入選3等

- ・「アズキゾウムシは高度に産卵基質を選択する」

千葉市立千葉高等学校 2年

安部 和輝、荒川 慶太

審査評 実験デザインがしっかりしていて、着目する要因の効果を定量的に示している。アズキの皮をむくという視点もユニークで良い。

★第82回全日本学生児童発明くふう展

○奨励賞

- ・「頭と体を同時にきたえるバランス迷路」

市原市立牧園小学校 6年 中村 充

審査評 足踏みコントローラーの傾きをセンサーで検知して、迷路に信号を送るようプログラムされている。足の動きが迷路とうまく連動する。

○入選

- ・千葉市立美浜打瀬小学校 3年 小池 ひなた
- ・浦安市立北部小学校 5年 佐藤 優成
- ・市川市立市川小学校 5年 高橋 和花
- ・千葉市立草野小学校 6年 久米村 美和
- ・我孫子市立湖北台西小学校 6年 福野 琴美
- ・柏市立豊四季中学校 1年 樋口 航太
- ・松戸市立常盤平中学校 2年 林 克樹
- ・野田市立南部中学校 2年 幸松 隼治
- ・千葉市立川戸中学校 3年 青山 直樹
- ・白井市立七次台中学校 3年 上林 蓮斗

令和6年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展一般公開は、10月19日（土）・20日（日）、県総合教育センターで行う予定である。ぜひご覧ください。

※**審査評**は「優秀作品選集」より抜粋。

教育相談事業の紹介

県総合教育センター特別支援教育部

1 はじめに

県総合教育センター特別支援教育部では、教育相談事業を実施している。場所は、子どもと親のサポートセンター内にある。いじめや不登校・心や体のこと等に関する相談は子どもと親のサポートセンターで対応し、特別な教育的支援を必要とする子供に関する相談は当センターで対応している。



2 教育相談事業の概要

教育相談は、当センターの所員及び相談員（公認心理師、言語聴覚士等）で対応している。

(1) 来所相談について

① 来所相談

保護者担当と子供担当の二人体制で行い、必要に応じて諸検査や関係機関との連携等を行っている。



② 医療相談

来所相談の内容により、精神科医・小児科医、視覚認知（見え方）に関する専門機関センター長による相談を行っている。

③ 出張相談

来所相談を重ねる中で、保護者から希望があった場合、本人の在籍する学校等に訪問して連携を図っている。本人の様子を参観したり、関係者会議を行ったりしてより良い支援方法を検討している。

④ 保護者懇談会

来所相談を利用している保護者を対象に、

千葉大学の細川かおり教授を招いて年に1回保護者同士で話し合う機会を設けている。

(2) 電話相談・メール相談

本人や保護者のほか、学校職員等からの相談にも応じている。

(3) 教育相談会について

県民に当センターの教育相談事業の周知を図るために、来所相談者以外の県民を対象とした「教育相談会」を開催している。当日は、教育相談のほか、「学習支援アプリやグッズ、玩具等の紹介」も行っている。

令和6年度は、9月26日実施予定である。



教材・教具の紹介

3 おわりに

子供や保護者の気持ちに寄り添うことを第一に相談活動を行っている。来所しているケースであれば、学校等と連携を図ったり、医療相談を行ったりするのも当センターの教育相談の特徴である。是非、御活用願いたい。

千葉市稲毛区小仲台5-10-2

（千葉県子どもと親のサポートセンター内）

来所相談：初回時は電話にて要予約

相談専用電話番号：043-207-6025

電話相談受付時間【月～金：9:00～16:30】

（祝日、年末・年始は除く）

メール相談：sosesoudan@chiba-c.ed.jp

開館50周年記念 特別展 「PROJECT UMINOUE 『五十嵐靖晃 海風』」 7月13日（土）～9月8日（日）

県立美術館



五十嵐靖晃《そらあみ〈島巡り〉》（瀬戸内国際芸術祭2019）

千葉県出身のアーティスト・五十嵐靖晃（1978～）は、人々との協働を通じて、その土地の暮らしと自然とを美しく接続させ、景色をつくり変えるような表現活動を各地で展開している。2005年にヨットで日本からミクロネシアまで約4000kmを航海した経験から“海からの視座”を活動の根底としている。樟の落ち葉を掻いてかつて存在した千年樟をみんなで協働して描き出す、今年で15年目を迎える太宰府天満宮のプロジェクト「くすかき」、参加者と協働で漁網を編み、網の目を通して土地の風景を捉え直す「そらあみ」、古くから地域に伝わる弁天信仰を住民とともに再構築する熊本県津奈木町のプロジェクト「海渡り」など、アーティストが媒介となることで、土地を想う人々の心を重ね、つなぎ、未来へと継承する活動を全国で行っている。

本展は、五十嵐がひとつの航海にもなぞらえる全国でのさまざまな活動を経て、地元である千葉に戻り、千葉に向き合うひとつの節目となる。県立美術館の開館50周年を記念したアートプロジェクトであり、当館と当館が位置する千葉みなとエリアのリサーチに基づ



寒川神社例祭「御浜下り」撮影：みさこみさこ

いた新作を発表する。東京湾を臨む千葉みなとの港湾に位置し、県民のための明るく親しまれる美術館を目指して開館した県立美術館は、地域と共に何を積み重ねてきて、どこへ向かうのか。数多くの作品を所蔵する美の殿堂であると共に、房総の地域性を基盤に、人々の行き交う場として、変革期にある美術館のひとつの挑戦とも言えるかもしれない。

本展は、「かつての海の上である埋立地に新たな文化をつくる」を基本コンセプトに、千葉みなとエリアを舞台として開催する回遊型美術展覧会である。大高正人による美術館建築を象徴する第7展示室の建築空間を存分に生かしたインスタレーション作品、美術館コレクションとのコラボレーション、屋外作品、参加型ワークショップ、地元祭事との連携イベントなどで構成する。県立美術館の開館50周年を記念して、地元住民と来訪者との交流やアートを介した協働を通じて人と人、人と土地とのつながりを見出し、千葉みなとの魅力を楽しみながら、埋立地ならではの新たな文化を創造することを目指す。

特別展「万祝^{まいわい}博覧会ー海をまとうー」 7月27日（土）～9月29日（日）

県立中央博物館

江戸時代の房総半島で誕生したという漁師の祝い着「万祝^{まいわい}」。鶴亀や宝船、海などを大きく描いた着物で、鮮やかな色彩が特徴的だ。大漁などの慶事のご祝儀として船主から船子や親類縁者へ贈られたこの着物には、海に生きる人々の喜びや誇りが詰まっている。

漁師の祝い着の文化は青森県から静岡県まで広まり、各地でカンバン・大漁バンテンなどの呼称や新たなデザインを生み出し、地域ごとのオリジナリティをもって発展した。万祝を贈る習俗は昭和30年代に失われていったが、現在も郷土芸能などに万祝を着る文化が見られるほか、万祝の染色技術を継承する「紺屋^{こうや}」が残り、デザインを未来へ残す新たな取組も始まっている。

本展示は、県内外の各地域に残る色鮮やかで魅力的な「万祝」が一堂に会する初の展示である。さらに、[様々な視点から万祝をみる]をコンセプトとして、漁師の文化だけではなく、海を通じた文化の伝播、染色技術やデザインの継承など、多方面から万祝を取り上げ、海とともに生きる房総の人々の精神文化を紹介する。

また、夏休み期間は毎週末、万祝の試着体験や子供も楽しめるイベントを実施する。

1 大漁の祝い

江戸後期の房総半島で生まれたといわれる万祝。誕生の背景にある漁業文化や、大漁祝いの習俗について紹介する。

2 万祝文化圏

紺屋の営業活動や漁師・漁業会社の移動を

通じて、大漁の祝い着の文化は各地に広がった。地域によって呼び方にバリエーションが生まれ、各地で制作された祝い着は、独自の模様や「型」を作り出し、発展していった。各地の万祝から、地域ごとの特色を紹介する。

3 紺屋^{こうや}の仕事

万祝を染める染物屋を紺屋^{こうや}という。県内に残る日記資料をもとに明治時代における万祝の注文過程を紹介するほか、現代の紺屋の染色道具と染色技術を取り上げる。

4 万祝の新たな地平

漁業の文化としては衰退した万祝だが、新たな意味をもって今に生き続けている。美術の題材、民芸蒐集品、染色技術とデザイン、そして郷土芸能を彩る衣装など、いずれも万祝に特別な価値が見出され、地域を象徴する文化として大切に受け継がれている。様々な万祝の今を紹介する。



「万祝」千葉県立中央博物館所蔵

【連載・県立高校の今】 令和6年度 第1回 木更津東高校（「魅力ある県立学校づくり大賞」最優秀賞） 理数科設置校、松戸向陽高校、佐倉東高校（「学校提案型魅力発信事業」実施校）

県教育庁企画管理部教育政策課高校改革推進室

1 はじめに

昨年度に引き続き、県立高校の今の姿を伝える「高校NOW!」の連載を継続させていただくことになった。

今回は、令和5年度の振り返りとして、「魅力ある県立学校づくり大賞」最優秀賞に輝いた木更津東高校と、「学校提案型魅力発信事業」を実施した理数科設置校、松戸向陽高校、佐倉東高校の取組を紹介したい。

2 魅力ある県立学校づくり大賞

これは、県教育委員会が、学校自らが学校や地域の実情に応じ企画・提案する取組を顕彰するものである。令和5年度は13校より応募があり、木更津東高校は、令和5年度の最優秀賞に輝いた。

(1)木更津東高校の取組

木更津東高校は、全日制の課程に普通科と家政科、定時制の課程夜間部に普通科（普通コース、商業コース）を持つ学校で令和6年度にはそれぞれ114年目、74年目を迎える。

継続してきた木更津市との連携に、「持続可能な未来の実現に向けて生産から販売までを体験」という新たな着眼点を盛り込み、2つのプロジェクトを展開した。

①「子どもが主役のファッションショー」

～未来の子どもたちのために種をまく～

市が開催するファッションショーに家政科の生徒が中心となり、未来への期待をファッションで表現した。

公募で集まった案をもとに、モデルとのヒアリングを通じデザインを固め、縫製し、

当日のヘアメイクまで含めたコーディネートを考えた。当日は2,000人近く来場者があり、ネット配信も好評であった。



木更津コレクション2022

②地域企業との連携商品開発

木更津市の地域づくりの一環として、地域企業と連携共同して「生産・商品開発・販売」までを一貫して行い、商品としてクッキーとニョッキを開発した。

約1年前から連携先企業の理念を学び、生徒自らの手でさつまいもを植付け、成長観察等を経て収穫まで行った。

その後、家政科生徒の議論を経て、候補を選定し、商品を販売した。

1か月の販売期間を通じて予定していた1,000個を売り上げることができた。

開発に至るまでの経緯や、商品の写真は木更津市の公式HPにて公開中である。



開発したクッキー



木更津市HP

3 学校提案型魅力発信事業

中学生が自らの興味関心にあった高校を選ぶためには、高校が各学科の教育内容などの魅力や特徴を中学生に向けて効果的に情報発信することが重要である。

そこで、高校と地域のさまざまな主体が連携・協働して高校の魅力を発信する「学校提案型魅力発信事業」を、令和5年度に初めて実施した。その中から4つの取組を紹介する。

事業名	実施校
理数科って何だ？理数科で学ぼう！ ～理数科の魅力発信～	理数科設置校
成田地区県立高校による中学生のキャリアアップゼミ	成田西陵、成田国際、成田北、下総、富里
企業と連携したもののづくりの魅力発信	千葉工業
高校生によるケアリング・コミュニティプロジェクト	松戸向陽
成田空港及び近隣機関と連携した学校魅力発信事業	下総
地産地消のスイーツづくり	佐倉東
高校生が教える友禅染体験授業	佐倉東
「観光ビジネス」による地域連携～高校生と巡る旅～	東金商業

令和5年度実施事業一覧

(1)理数科設置校の取組

県内公立高校理数科設置校（船橋、柏、佐倉、佐原、匝瑳、成東、長生、木更津、市立千葉、市立銚子）は、千葉工業大学と連携して、8月に理数科進学フェアを開催した。「しじみ釣り」や「試験管の中に雪を降らせてみよう」など21の実験コーナーを設置し、多くの小中学生が体験した。



しじみ釣りの様子

(2)松戸向陽高校（福祉教養科）の取組

介護福祉士の資格取得を目指す福祉教養科

では、フィールドワークにより地域の課題やニーズを見出し、福祉の知識を生かしたコミュニティづくりを実施した。その一環として、高校生と地域の高齢者で「駄菓子ばあひまわり」を協働運営した。



「駄菓子ばあ ひまわり」開店！

(3)佐倉東高校（調理国際科）の取組

卒業時に調理師免許が取得できる調理国際科は、近隣の中学校の生徒と一緒に、オリジナル焼き菓子「さくらふるふる（ブル・ド・ネージュ）」を製作した。



体験授業の様子（左）

完成した「ブル・ド・ネージュ」（右）

(4)佐倉東高校（服飾デザイン科）の取組

県内公立高校で唯一の服飾デザイン科は、市内在住の作家から学んだ友禅染の手法や技術を生かして、近隣の小学校の児童と一緒に、友禅染の体験授業を行った。



体験授業の様子（左）

完成したトートバッグ（右）

障害のある子供の支援をする教職員の方へ ～特別支援教育基礎コンテンツの御紹介～ 「自閉症」「発達障害」コンテンツの掲載追加について

県総合教育センター特別支援教育部

1 はじめに

特別支援教育基礎コンテンツは、若年層や特別支援教育の経験が浅い教員を対象として、すぐに実践で役に立つことを分かりやすく伝えるために作成したコンテンツである。

令和2年度、「いつでも、どこでも、学ぶことができること」「本県の特別支援教育の専門性の向上に貢献できること」を目的に、当センターWebサイトに県内教職員限定で障害別基礎コンテンツとして「知的障害」「自閉症」「発達障害」「肢体不自由」のコンテンツを公開した。令和3年度には、「視覚障害」「聴覚障害」「病弱・身体虚弱」「言語障害」の四つの障害種の改訂を行い、追加掲載した。

令和4年度には、発達のつまずきや困難さのある子供の理解と支援のための「高等学校用コンテンツ」「幼児版コンテンツ」の改訂を行った。障害別基礎コンテンツから、高等学校用、幼児版コンテンツを合わせた特別支援教育基礎コンテンツと名称を変更し、計10コンテンツを当センターWebサイトに掲載した。

令和5年度は、「自閉症」「発達障害」コンテンツの改訂を行った。

2 令和6年度Webサイト「特別支援教育基礎コンテンツ」の追加掲載内容

【自閉症】

- I 自閉症のある子供の理解と支援
- II 実態把握と支援
- III 具体的支援
- 資料集ワークシート
 - ・ABC分析シート
 - ・課題分析シート

【発達障害】

- I 発達障害のある子供の理解
 - 発達障害とは
 - 自閉症・学習障害・注意欠陥多動性障害のある子供の理解 等
- II 発達障害のある子供の指導・支援
 - 席を離れて立ち歩いてしまう子供
 - 読み・書きが苦手な子供
 - 人との関わりが苦手な子供 等

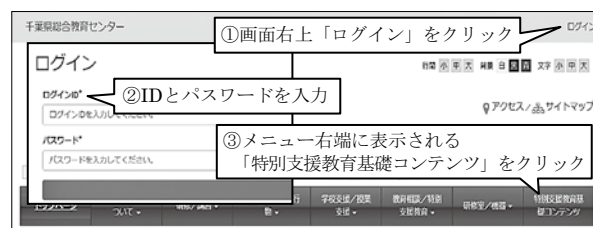
3 コンテンツの利用方法

(1)利用申込

- ① sosetokusi@chiba-c.ed.jp のメールアドレスへ御名前と御所属を明記の上「特別支援教育基礎コンテンツ希望」である旨を送信する。
- ② IDとパスワードが返信される。

(2)コンテンツのダウンロード

- ① 県総合教育センターWebサイトの画面右上のログイン部分をクリックする。
- ② ログイン画面が表示されるので、送られてきたIDとパスワードを入力する。
- ③ メニュー右端に「特別支援教育基礎コンテンツ」が新たに表示されるのでクリックし、ダウンロードする。



4 おわりに

本コンテンツは、ベテラン層の教職員にとっても自身の実践の振り返りや指導者として研修を主催する上で有効である。是非、県内多くの先生方に御活用いただきたい。

【問合せ先】 特別支援教育部 (043-207-6023)

千葉歴史の散歩道

石器から分かる 「石の採れない土地」千葉県の持つ魅力

千葉県教育庁教育振興部文化財課発掘調査班文化財主事 あらき こうだい
荒木 昂大



千葉県の主要生産物といえば落花生が有名だが、他にも多くの作物が国内トップクラスの産出額となっている。農林水産省の生産農業所得統計によれば、落花生のほか計8品目が全国1位の産出額である（令和4年産）。2位、3位まで広げればさつまいも、にんじん等さらに増える。千葉県は全国有数の「採れる」県である。

しかし、一万年以上前の旧石器時代、現在の千葉県である房総半島は「採れない」地域だった*。食べ物のことではない、石器に用いる石材のことである。

石器に適した石というのは何種類かある。黒曜石、頁岩^{けつがん}、サヌカイト等が知られるが、共通しているのは狩りや加工の道具として刺したり切ったりできるよう、割った時に固く鋭い刃ができる石材である点だ。これを満たす石材が房総半島には乏しい。例えば有名な黒曜石は、溶岩が冷えて固まった天然のガラスで、火山周辺で採取されるものだが、近隣に火山のない房総半島ではまともに見つからない。石器がないと道具が作れず食べ物の獲得にも困ってしまう。石材の獲得は旧石器時代の人々にとって文字通り死活問題だった。

では、「石の採れない」房総半島は当時の人々にとって重要ではない土地だったのか。そうでないことは発掘調査が証明^{すみふるさわ}してくれている。酒々井町の国指定史跡墨古沢遺跡をはじめ、千葉県には988の旧石器時代遺跡がある（2010『日本列島の旧石器時代遺跡』日本旧石器学会）。他県と比べても多いこれらの

遺跡で発掘された石器を分析すると、高原山（栃木県）や霧ヶ峰等（長野県）、神津島（東京都）で採れる黒曜石、東北地方で採れる頁岩、群馬県の黒色ガラス質安山岩、茨城県のメノウ等々の石材で作られたことが分かる。

こうした発見は当時の人々がどれほどの範囲で活動していたのかを考える一助となる。遊動する狩猟採集民であった旧石器時代の人々は、石材の採れる地域と採れない房総半島の両方を活動域に取り入れていた。

他にも、石器自体をよく観察すると、持ってきた原石を無駄なく生かす割り方の工夫や、同じ石器を何度も割り直して小さくなるまで使い続けるような工夫が見てとれる。石材が採れない土地ならではの知恵と言えるだろう。

石器時代の人々が房総半島に訪れていた理由、それは石がなくとも魅力的な土地であったからだろう。近年の研究では旧石器時代の房総半島北部は関東有数の良好な狩猟場だった可能性が示唆されている。また、海に囲まれた房総半島は水産資源も豊富であったことであろう。千葉県の豊かな自然と食料資源は、昔も今も人々を惹きつけ続けているのだ。



千葉県では「採れない」黒曜石

※千葉県内にも一部石器用石材が採取できる地域はあり、県南や銚子産のものが石器利用されている。

千葉教育 蓮 (No. 686) 令和6年6月20日発行

編集・発行

千葉県総合教育センター（代表）酒井 誠一

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13

TEL 043-276-1204

URL <https://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所

千葉市療育センター いずみの家

〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3

TEL 043-216-2465

次号予告**『千葉教育』 萩 (No.687)****◆特集 交流及び共同学習の実践****○シリーズ 現代の教育事情**

県教育庁教育振興部特別支援教育課

県立栄特別支援学校 教諭

県立東金特別支援学校 教諭

木下 武治

新宮 晃

○提言

房州うちわ振興協議会 会長

太田 美津江

**令和6年度
シリーズ 現代の教育事情**

蓮 686号	教職の魅力
萩 687号	交流及び共同学習の実践
菊 688号	小中一貫教育の現状
梅 689号	学級経営を考える
菜 690号	外国人児童生徒等教育の実際
桜 691号	学校・家庭・地域の連携

「千葉教育」は千葉県総合教育センターの
Web サイトから閲覧・ダウンロードできます。千葉教育
蓮号 読者アンケート

表紙写真について

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

6年生ありがとうの会。

卒業生から伝統のバトンを引き継ぐ在校生。